岐阜県現代陶芸美術館
年報　第3号　06／07

Annual Report Vol.3 Museum of Modern Ceramic Art, Gifu

目次

▶ギャラリーⅠ
002　2006年度　金子潤
003　20世紀陶芸界の鬼才　加守田章二
007　景徳鎮千年展

010　2007年度　生誕120年　富本憲吉
014　岡部嶺男展－青磁を極める－
018　じゃんけんぽんの考え方－勝ち負けのない共存
021　前衛陶芸の諸相

▶ギャラリーⅡ
024　2006年度　展示室A　写実をまとう－初期・宮川香山展
025　展示室B　発光する陶磁器
025　展示室D　リアル－陶芸に見るそれぞれの現実
026　展示室C　思春期のカタチ2006－ワークショップ作品展－
027　展示室A　鈴木藏
028　展示室B　岐阜の芸術－技と表現－
029　展示室D　取っ手に注目
029　2007年度　展示室A　模様について
030　展示室B　受贈記念－人間国宝　清水卯一展
031　展示室D　藤平伸
031　展示室ACD　第7回国際陶磁器展美濃グランプリ受賞者展〔井戸真伸〕〔古川周而〕
033　展示室B　思春期のカタチ2007－ワークショップ作品展－
033　展示室A～D　中欧の現代陶芸－ハンガリーとチェコを中心に

036　収蔵作品点数年度別一覧
037　収蔵作品貸出記録
038　06／07年度収蔵品
039　入館者数一覧
040　教育・普及活動
044　館の概要　組織及び構成
岐阜県現代陶芸美術館協議会委員
岐阜県現代陶芸美術館収蔵品選定評価委員会
職員の動静
048　施設概要
050　施設案内

2006年度　特別展
ギャラリーⅠ　巡回展

金子潤

Jun Kaneko

会　期：2006年4月15日（土）ー7月9日（日）
観覧料：一般800円、大学生600円、高校生以下無料
主　催：岐阜県現代陶芸美術館
共　催：中日新聞社
協　力：カサハラ画廊

■内容

金子潤は、1942年に名古屋で生まれました。1963年に画家を志して渡米し、64年に、ロサンゼルスのシャナード美術学校で土と出合い、さらにジェリー・ロスマンの工房で陶芸を学びます。その後、アメリカ現代陶芸の巨匠、ピーター・ヴォーコスに学びました。1964年には、権威ある全米陶芸展で入選を果たし、多くの展覧会の招待を受けるようになり、79年には伝統あるクランブルック・アカデミーに教員として招聘されました。また1984年には、ボストン美術館で開催された「アメリカ現代陶芸の動向」展において、アメリカを代表する15人の作家のひとりに選ばれています。

1986年からネブラスカ州オマハにアトリエをかまえ活動を続け、近年では、絵画作品の個展を開くほか、ガラス作品、オペラの舞台や衣装を手掛けるなど多彩な活動を展開しています。

本展覧会では金子の近作を中心に39点を展示しました。彫刻志向が強いアメリカ陶芸において、大きなスケールとともに、独特な加飾の世界を展開する金子潤の陶芸作品に加え、さらに絵画やガラス作品も紹介し、明快な色彩と形態、そしてダイナミックな手法と表現による金子芸術の魅力に迫りました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】
定年時代 岐阜版　［展覧会紹介／2006年3月］
西濃ホームニュース　水の里　［展覧会紹介／2006年3月11日］
ぎふ咲楽　第5巻　第61号　［展覧会情報／2006年3月20日］
ギャラリー　vol.252　［展覧会紹介／2006年4月1日］
Museum Schedule（博物館イベント情報システム）
［展覧会紹介／2006年4月5日］
NOC　vol.87　［展覧会情報／2006年4月20日］
炎芸術　86号　［展覧会紹介記事・岩井学芸員／2006年5月1日］
陶磁郎46　［展覧会紹介／2006年5月16日］
アート・トップ　vol.209　［展覧会紹介／2006年5月20日］
日経interesse　122号　［展覧会紹介／2006年6月］
現代挿花　544号　［展覧会紹介／2006年6月1日］
陶説　639号　［展覧会紹介記事・井上隆生／2006年6月1日］
BRUTUS　595号　［展覧会紹介／2006年6月15日］
CLAY IN ART INTERNATIONAL YEARBOOK
［展覧会紹介／2007年］

【新聞】
中日新聞（岐阜県版）　［展覧会紹介記事／2006年4月15日］
中日新聞（岐阜県版）　［関連事業紹介記事／2006年4月16日］
朝日新聞　［展覧会評・井上隆生／2006年4月25日］
中日新聞（東濃版）　［展覧会関連記事／2006年4月27日］
中日新聞　［展覧会評・森村陽子／2006年5月11日］
中日新聞（岐阜県版）
［展覧会出品作品解説・岩井学芸員／2006年5月23日～25日］
日本経済新聞　［展覧会評・山脇佐江子／2006年5月25日］
朝日新聞　［展覧会評・古川秀昭／2006年12月19日］

【その他】
東海ラジオ「小島一宏モーニングあいランド」
［展覧会紹介／2006年4月13日］

■入場者数

3,157人

■関連事業

▶ **スライドレクチャー**
講　　師：金子潤
日　　時：2006年4月15日（土）午後1時30分～3時
会　　場：岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム
入場者数：200人

■印刷物

展覧会図録『金子潤』 104頁

編　　集：岩井美恵子
　　岐阜県現代陶芸美術館
翻　　訳：橋本啓子
　　クリストファー・スティヴンズ
デザイン：小寺克彦
印　　刷：西濃印刷株式会社
発　　行：岐阜県現代陶芸美術館

■巡回会場

国立国際美術館　　2006年7月29日－9月18日

■出品リスト

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	無題	1989年	ザ・カネコ
2	無題	1989年	作家
3	無題	1992年	ザ・カネコ
4	無題	1994年	ザ・カネコ
5	無題	1995年	ザ・カネコ
6	無題	1995年	岐阜県現代陶芸美術館
7	無題	1995年	ザ・カネコ
8	無題	1996年	ザ・カネコ
9	影	1996年	ザ・カネコ
10	光と影のあいだ	1996年	ザ・カネコ
11	無題	1996年	ザ・カネコ
12	無題	1996年	カサハラ画廊
13	無題	1996年	ザ・カネコ
14	無題	1998年	作家
15	無題	1999年	作家
16	無題	1999年	作家
17	無題	1999年	ザ・カネコ
18	陶壁	2000年	作家
19	無題	2000年	作家
20	無題	2001年	作家
21	無題	2001年	作家
22	無題	2001年	ザ・カネコ
23	無題	2001年	ザ・カネコ
24	無題	2002年	ザ・カネコ
25	無題	2002年	ザ・カネコ
26	無題	2002年	作家
27	無題	2002年	作家
28	無題	2002年	作家
29	無題	2003年	作家
30	無題	2003年	作家
31	無題	2003年	作家
32	無題	2004年	作家
33	無題	2004年	作家
34	無題	2005年	作家
35	無題	2005年	作家
36	無題	2005年	作家
37	無題	2005年	作家
38	無題	2005年	作家
39	無題	2005年	作家

2006年度　特別展

ギャラリーⅠ　巡回展

20世紀陶芸界の鬼才 加守田章二

KAMODA Shoji－A RETROSPECTIVE

会　期：2006年7月29日（土）－10月9日（月・祝）
観覧料：一般800円、大学生600円、高校生以下無料
主　催：岐阜県現代陶芸美術館、朝日新聞社、岐阜新聞・岐阜放送
協　力：全日本空輸株式会社、株式会社資生堂

■内容

1933年、加守田章二は大阪府岸和田市の旧家に生まれます。岸和田高校から美術の才能を発揮、京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）で富本憲吉の指導を受けました。1959年には栃木県益子町に窯を借りて本格的な作陶生活に入り、1967年には陶芸家として唯一高村光太郎賞を受賞しました。しかし、加守田はこのような賞賛を甘んじて受けることはなく、日本伝統工芸展の出品をやめ、岩手県遠野に窯を構えて自己の新境地を追求し続けます。次々に発表される斬新な加飾と器形は多くの人を魅了しました。その後も自らの理想に向かって精力的に作陶を続けましたが、1983年、50歳を前にして夭折し多くの人に惜しまれました。

加守田を回顧する展覧会はこれまでにも開催されていますが、本展覧会では、加守田家のご協力を得て改めて一次資料等を調査させていただき、今なお輝き続ける加守田の世界を検証しました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】

たじたじ　300号　［展覧会紹介・村山学芸員／2006年8月1日］
翼の王国　WINGSPAN　446号　［展覧会紹介／2006年8月1日］
どきどき　264号　［展覧会解説・村山学芸員／2006年8月2日］
らぶらぶワイドぎふTODAY　［展覧会紹介／2006年8月2日］
陶業時報　1552号　［展覧会紹介／2006年8月5日］

【新聞】

朝日新聞　［展覧会紹介／2006年1月9日］
岐阜新聞　［展覧会解説・村山学芸員／2006年7月20日］
朝日新聞（愛知版）　［展覧会評・福島建治／2006年7月24日］
朝日新聞（岐阜版）　［展覧会・関連事業紹介／2006年7月25日］
朝日新聞　［展覧会紹介／2006年7月30日］
岐阜新聞　［展覧会・関連事業紹介／2006年7月30日］
岐阜新聞（東濃地域版）
［関連事業紹介記事・村本みどり／2006年8月6日］
岐阜新聞　［展覧会解説・村山学芸員／2006年8月9、12、15、20、22、26、30日］
朝日新聞　［展覧会評・井上隆生／2006年9月5日］
日経新聞（夕刊）　［展覧会評・山脇佐江子／2006年9月7日］

【その他】

NHK教育「新日曜美術館　アートシーン」
［展覧会情報／2006年6月12日］
岐阜テレビ「ランチタイムニュース」
［展覧会紹介・村山学芸員／2006年7月10日・8月2日］

■入場者数

6,607人

■関連事業

▶ **講演会**

「わが師、富本憲吉　わが友、加守田章二」

講　　師：柳原睦夫
日　　時：2006年8月5日（土）午後2時～3時30分
会　　場：セラミックパークMINOイベントホール
入場者数：90人

■印刷物

展覧会図録『20世紀陶芸界の鬼才　加守田章二』 215頁
編　集：京都国立近代美術館　朝日新聞社事業本部西部企画事業チーム
印　刷：凸版印刷株式会社
発　行：朝日新聞社事業本部西部企画事業チーム

■巡回会場

京都国立近代美術館	2005年5月31日－7月10日
山口県立萩美術館・浦上記念館	2005年7月16日－9月4日
東京ステーションギャラリー	2005年9月10日－10月23日
岩手県立美術館	2006年6月3日－7月17日
岐阜県現代陶芸美術館	2006年7月29日－10月9日

■出品リスト

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	灰釉壺	1952年	個人蔵
2	灰釉壺	1955年	個人蔵
3	壺	1956年	京都市立芸術大学芸術資料館
4	植木鉢	1957年	個人蔵
5	面取花瓶	1958年	個人蔵
6	壺	1959年	個人蔵
7	大皿	1960年	個人蔵

8	大鉢	1960年	個人蔵
9	壺	1960年	小川美術館
10	鉄釉水指	1961年	小川美術館
11	灰釉花器	1964年	個人蔵
12	灰釉壺	1964年	福島県立美術館
13	灰釉鉢（大・小）	1965年	個人蔵
14	灰釉筒向付（6客）	1966年	個人蔵
15	灰釉小鉢（5客）	1966年	栃木県立美術館
16	灰釉大鉢	1966年頃	岐阜県現代陶芸美術館
17	灰釉壺	1966年	個人蔵
18	灰釉鉦鉢	1966年	東京国立近代美術館
19	壺	1966年	個人蔵
20	灰釉大皿	1966年頃	福島県立美術館
21	灰釉鉢	1967年	京都国立近代美術館
22	灰釉花瓶	1967年	個人蔵
23	灰釉向付（6客）	1967年	個人蔵
24	灰釉花瓶	1967年	個人蔵
25	灰釉大鉢	1967年	栃木県立美術館
26	灰釉大壺	1967年	栃木県立美術館
27	大鉢	1967年	栃木県立美術館
28	壺	1967年	東京国立近代美術館
29	炻壺	1967年	東京国立近代美術館
30	酸化炻鉢	1967年	栃木県立美術館
31	銀陶花瓶	1968年	栃木県立美術館
32	銀陶角瓶	1968年	個人蔵
33	銀陶六面鉢	1967年	京都国立近代美術館
34	大角皿	1968年	栃木県立美術館
36	炻壺	1968年	東京国立近代美術館
37	炻筒	1968年	広島県立美術館
38	炻器壺	1968年	岩手県立美術館
39	角瓶	1969年	小川美術館
40	炻器面壺	1969年	個人蔵
41	面体炻壺	1969年	栃木県立美術館
42	炻器筒	1969年	小川美術館
44	刻線文長方皿	1969年	東京国立近代美術館
45	炻器壺	1969年	ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館
46	大角皿	1969年	京都国立近代美術館
47	曲線文扁壺	1970年	岐阜県現代陶芸美術館
48	曲線彫文皿	1970年	岩手県立美術館
49	曲線彫文鉢	1970年	個人蔵
50	曲線彫文扁壺	1970年	個人蔵
51	曲線彫文筒	1970年	個人蔵
52	曲線彫文壺	1970年	小川美術館
53	曲線彫文壺	1970年頃	小川美術館
54	曲線彫文扁壺	1970年	広島県立美術館
55	曲線彫文扁筒	1970年	個人蔵
56	曲線彫文壺	1970年	個人蔵
57	筒型銀彩陶	1970年	小川美術館
58	扁筒形彩陶	1971年	個人蔵
59	壺形彩陶	1971年	個人蔵
60	彩陶長方皿	1971年	岩手県立美術館
61	筒形彩陶	1971年	小川美術館
62	彩陶六角鉢	1971年	小川美術館
63	筒形彩陶	1971年	岩手県立美術館
64	彩陶壺	1971年	小川美術館
66	彩陶長方皿	1971年	個人蔵
67	彩陶壺	1971年	小川美術館
68	彩陶壺	1971年	岩手県立美術館
69	彩色壺	1971年	広島県立美術館
70	彫文炻壺	1972年	個人蔵
71	彩色角扁壺	1972年	個人蔵
73	彩色壺	1972年	栃木県立美術館
74	彩色角壺	1972年	岐阜県現代陶芸美術館
75	彩色筒	1972年	広島県立美術館
76	壺	1972年	個人蔵
77	彩色壺	1972年	個人蔵
78	彩陶筥	1972年	小川美術館
79	黒縞陶筥	1972年	個人蔵
80	象嵌鉢	1972年	小川美術館
81	壺	1973年	個人蔵
82	壺	1973年	個人蔵
83	壺	1973年	個人蔵
84	壺	1973年	小川美術館
85	壺	1973年	個人蔵
86	壺	1973年	栃木県立美術館
87	壺	1973年	東京国立近代美術館
88	皿	1973年	個人蔵
89	壺	1973年	小川美術館
90	壺	1973年	個人蔵
91	壺	1973年	小川美術館
92	壺	1973年	個人蔵
94	壺	1973年	個人蔵
96	彩色壺	1973年	栃木県立美術館
97	彩色鉢	1973年	個人蔵
98	壺	1974年	栃木県立美術館
99	壺	1974年	小川美術館
101	壺	1974年	個人蔵
102	壺	1974年	栃木県立美術館
103	壺	1974年	小川美術館
104	壺	1974年	小川美術館
105	皿	1974年	小川美術館

106	皿	1974年	資生堂アートハウス
107	壺	1975年	岩手県立美術館
108	陶板	1975年	個人蔵
109	彩色壺	1975年	広島県立美術館
110	彩色壺	1975年	岩手県立美術館
112	彩色壺	1975年	個人蔵
113	花器	1975年	個人蔵
114	壺	1975年	個人蔵
115	壺	1975年	個人蔵
116	壺	1976年	個人蔵
117	壺	1976年	小川美術館
118	壺	1976年	小川美術館
119	壺	1976年	岩手県立美術館
120	壺	1976年	個人蔵
121	壺	1976年	個人蔵
122	壺	1976年	小川美術館
125	壺	1976年	個人蔵
126	壺	1976年	個人蔵
127	壺	1976年	個人蔵
128	壺	1976年	資生堂アートハウス
129	壺	1976年	個人蔵
131	壺	1977年	個人蔵
132	壺	1977年	個人蔵
133	壺	1977年	小川美術館
134	壺	1977年	岩手県立美術館
135	鉢	1977年	個人蔵
136	鉢	1977年	小川美術館
137	鉢	1977年	小川美術館
138	壺	1977年	小川美術館
139	壺	1977年	資生堂アートハウス
140	壺	1978年	岩手県立美術館
141	壺	1978年	小川美術館
142	壺	1978年	小川美術館
143	壺	1978年	個人蔵
144	壺	1978年	資生堂アートハウス
145	壺	1978年	個人蔵
146	壺	1978年	小川美術館
147	壺	1979年	益子陶芸美術館
148	壺	1979年	個人蔵
149	壺	1979年	栃木県立美術館
150	壺	1979年	大阪府岸和田高等学校
151	壺	1979年	小川美術館
153	皿	1979年	小川美術館
154	壺	1979年	栃木県立美術館
155	扁壺	1980年	小川美術館
156	壺	1980年	個人蔵
157	壺	1980年	個人蔵
158	角壺	1980年	個人蔵
159	壺	1980年	個人蔵
160	壺	1980年	個人蔵
161	壺	1980年	小川美術館
162	彩磁壺	1980年	東京国立近代美術館
163	鉢	1980年	小川美術館
164	壺	1980年	小川美術館
165	壺	1980年	岐阜県現代陶芸美術館
166	壺	1980年	個人蔵
167	鉢	1980年	個人蔵
168	壺	1980年	個人蔵
169	壺	1980年	資生堂アートハウス
170	皿	1982年	小川美術館
171	陶板	1982年	小川美術館
172	陶板	1982年	小川美術館
173	彩色壺	1982年	小川美術館
174	彩色壺	1982年	個人蔵
175	灰釉茶盌「トホノ」	1968年	個人蔵
176	煎茶盌（5客）	1968年	益子陶芸美術館
177	焼締皿（5客）	1968年	個人蔵
178	茶盌	1971年	個人蔵
179	彩色合子	1972年	個人蔵
180	湯呑	1975年	小川美術館
181	湯呑	1975年頃	個人蔵
182	徳利	1978年	個人蔵
183	盃	1978年	個人蔵
184	茶盌	1979年	個人蔵
185	湯呑	1979年	小川美術館
186	徳利	1979年	個人蔵
187	盃	1980年	小川美術館
188	徳利	1980年	個人蔵
189	陶の図	1977年	個人蔵
190	陶の図	1979年	個人蔵
191	陶の図	1982年	個人蔵
192	陶の図	1982年	個人蔵
193	陶の図	1979年	個人蔵
194	陶の図	1979年	個人蔵
195	スケッチブックより	製作年不詳	個人蔵
196	スケッチブックより	製作年不詳	個人蔵
197	油彩画「街」	1950年	個人蔵
198	油彩画「山羊」	1950年	個人蔵
199	油彩画「加太の海」	1951年	大阪府岸和田高等学校
200	墨絵	1967年	個人蔵
	資料（パンフレット）		

2006年度　特別展
ギャラリーⅠ　巡回展

景徳鎮千年展

One Thousand Years of Jingdezhen

会　　期：2006年10月21日（土）－2007年1月8日（月・祝）
観 覧 料：一般800円、大学生600円、高校生以下無料
主　　催：岐阜県現代陶芸美術館、朝日新聞社、岐阜新聞・岐阜放送
特別協力：MEKホールディングス
協　　力：全日本空輸株式会社
企画協力：東京国立博物館
コーディネート：S2

■内容

中国江西省にある景徳鎮は、世界的な磁器の生産地として知られます。唐末五代（10世紀）には青磁や白磁の生産が始まり、北宋時代の景徳元年（1004年）、年号を冠した景徳鎮の名がこの地に与えられました。明・清時代には、宮廷のために陶磁器を焼造する官窯が景徳鎮には置かれ、その華麗な白磁、青花（染付）、五彩などの官窯磁器は今日でも高い評価を得ています。そして文化大革命末期の1975年、景徳鎮では中国革命の最高指導者毛沢東（1893～1976）主席専用の日常使いの器が焼かれました。中央政府より最高水準の器をつくるよう指示を受けて、景徳鎮の選りすぐりの職人たちと最良の材料が集められ、「玉のように白く、鏡のように明るく、音は磬のように」を制作の目標に研究が重ねられます。その年の第一級任務という意味を込めて「7501 工程」と呼ばれたこの計画は、ついに1400度の高温焼成による美しい磁器を完成させました。完成品のうち約1,000点あまりが毛沢東の住む北京に送られ、中央政府から残りは全て破棄するよう指示を受けますが、制作にかかわった人々は破損して再注文が来ても同じ水準のものは二度と作れないと密かに保管し、それらは毛沢東の没後、関係者に配られました。その製品は近年「最後の官窯」「現代の官窯」と人々に評されるほど中国国内で注目されています。本展は景徳鎮磁器の変遷を、宋時代の青磁器や明・清時代の歴代の官窯製品、そして日本初公開となる「7501 工程」の食器や文房具など合計約130件でたどり、およそ千年にわたって窯の火を絶やすことなく現代まで活動し続ける景徳鎮の姿を紹介しました。また景徳鎮から7501工程の制作関係者を招き、陶磁器生産の伝統や技術についての討論および交流を目的としたシンポジウムを行いました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】
新美術新聞　1095号　［展覧会情報／2006年8月1日］
陶工芸　42号　［展覧会情報／2006年9月1日］
ぎふ咲楽　67号　［展覧会情報／2006年9月20日］
allen　170号　［展覧会情報／2006年9月22日］
Chat　vol.83　［展覧会情報／2006年9月25日］
かにさんくらぶ　vol.136　［展覧会情報／2006年9月27日］
陶説　643号　［展覧会情報／2006年10月1日］
arch　vol.68　［展覧会紹介／2006年10月1日］
たじたじ　302号　［展覧会紹介／2006年10月3日］
日刊とうめい　［展覧会紹介／2006年10月4日］
どきどき　266号　［展覧会紹介／2006年10月4日］
全日本美術　649号　［展覧会紹介／2006年10月10日］
REX JOURNAL 131　［展覧会紹介／2006年11月］
小原流　挿花　672号
［展覧会解説・佐野学芸員／2006年11月1日］
City-1　137号　［展覧会紹介／2006年11月1日］
時局　39巻11号　［展覧会情報／2006年11月7日］
大上海圏日企情報PRESS　2巻11号
［展覧会紹介／2006年11月15日］
月刊　書道界　［展覧会情報／2006年11月15日］
美術の窓　278号　［展覧会紹介／2006年11月20日］
陶業時報　［展覧会紹介／2006年12月5日］
ふれんどあさひ　663号［展覧会情報／2006年12月5日］
収蔵　Collections　169号　［展覧会情報／2007年1月］
たじたじ　305号　［展覧会紹介／2007年1月1日］
陶説　647号　［展覧会評・井上隆生／2007年2月1日］
どきどき　270号　［展覧会記事／2007年2月7日］

【新聞】
岐阜新聞　［展覧会広告／2006年10月3日］
朝日新聞　［展覧会紹介／2006年10月18日］
岐阜新聞　［展覧会紹介／2006年10月20日］
岐阜新聞（夕刊）　［展覧会紹介／10月21日］
岐阜新聞　［展覧会紹介／2006年10月22日］
岐阜新聞（東濃地域版）
［展覧会紹介記事・田島豪人／2006年10月22日］
朝日新聞（岐阜版）　［展覧会情報／2006年10月22日］
中日新聞（岐阜総合版）
［展覧会紹介記事・妹尾浩和／2006年10月22日］
日経新聞　［展覧会紹介／2006年10月24日］
岐阜新聞　［展覧会解説・佐野学芸員／2006年10月25日］
岐阜新聞　［関連事業紹介記事・田島豪人／2006年11月12日］
岐阜新聞
［展覧会解説・佐野学芸員／2006年12月3、5、7、13日］
朝日新聞　［展覧会評・井上隆生／2006年12月5日］
朝日新聞　［展覧会解説・佐野学芸員／2006年12月6、7、8日］
県民福井　［展覧会紹介／2006年12月14日］

【その他】
岐阜テレビ「ランチタイムニュース」
［展覧会紹介・佐野学芸員／2006年10月16日］

NHK教育　「新日曜美術館　アートシーン」
［展覧会情報／2006年12月17日］

■入場者数

12,302人

■関連事業

▶ **シンポジウム「初公開・毛沢東の器－景徳鎮千年の果実」**

第1部　基調講演

「景徳鎮千年の歴史」 講師：中澤富士雄（たましん歴史・美術館副館長）

「毛沢東の器・7501工程について」 講師：楊火印（元中国軽工業陶瓷研究所副所長）

第2部　シンポジウム「毛沢東の器」

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ: 榎本徹（当館館長）

パネリスト：中澤富士雄（たましん歴史・美術館副館長）
楊火印（元中国軽工業陶瓷研究所副所長）
今枝寛彦（前大倉陶園社長／（財）セラミックパーク美濃専務理事）
塚本満（陶芸家）

日　　時：2006年11月11日（土）午後1時～5時
会　　場：セラミックパークMINO国際会議場
入場者数：150人

■印刷物

展覧会図録『景徳鎮千年展』184頁
編　　集：朝日新聞社事業本部文化部事業部
デザイン：亀井伸二(W.O.DESIGN)
印　　刷：望月印刷株式会社
制　　作：印象社
発　　行：朝日新聞社

■巡回会場

岐阜県現代陶芸美術館	2006年10月21日－2007年1月8日
茨城県陶芸美術館	2007年1月20日－3月21日
山口県立萩美術館・浦上記念館	2007年4月14日－6月17日
渋谷区立松濤美術館	2007年7月31日－9月17日

■出品リスト

第1室　磁都・景徳鎮　歴代官窯の器

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	青白磁獅子鈕水注・承盤	北宋	鴻禧美術館
2	青白磁輪花杯・托	北宋	鴻禧美術館
3	青白磁刻花蓮池文鉢	北宋	鴻禧美術館
4	青白磁刻花瑞獣文瓶	元	鴻禧美術館
5	釉裏紅花卉文瓶	元	鴻禧美術館
6	青花牡丹唐草文梅瓶	元	鴻禧美術館
7	青華蓮池水禽文双耳瓶	元	鴻禧美術館
8	釉裏紅花卉文大盤	明　洪武窯	南京博物院
9	白磁劃花束蓮文盤	明　永楽窯	鴻禧美術館
10	青花束蓮文大盤	明　永楽窯	鴻禧美術館
11	青花雲龍文鉢	明　宣徳窯	南京博物院
12	青花松竹梅文盤	明　成化窯	鴻禧美術館
13	青花松竹梅文盤	明　成化窯	南京博物院
14	白磁緑彩雲龍文盤	明　弘治窯	鴻禧美術館
15	青花龍唐草文渣斗	明　正徳窯	鴻禧美術館
16	黄釉碗	明　正徳窯	鴻禧美術館
17	黄地紅彩雲龍文壺	明　嘉靖窯	鴻禧美術館
18	五彩雲龍文方壺	明　嘉靖窯	鴻禧美術館
19	青花鳳凰唐草文水盂	明　嘉靖窯	鴻禧美術館
20	五彩双龍文盤	明　隆慶窯	鴻禧美術館
21	青花雲龍文筆皿	明　万暦窯	鴻禧美術館
22	五彩龍鳳文筆皿	明　万暦窯	鴻禧美術館
23	五彩雲龍文水盂	明　万暦窯	鴻禧美術館
24	青花龍唐草文水盂	明　万暦窯	鴻禧美術館
25	五彩龍鳳文蒜頭瓶	明　万暦窯	鴻禧美術館
26	五彩花果文盤	明　万暦窯	鴻禧美術館
27	豇豆紅合子	清　康熙窯	鴻禧美術館

28	素三彩花蝶文碗	清　康熙窯	鴻禧美術館
29	青花釉裏紅龍濤文梅瓶	清　康熙窯	鴻禧美術館
30	天藍釉碗	清　康熙窯	鴻禧美術館
31	釉裏紅緑彩花卉文水盂	清　康熙窯	鴻禧美術館
32	青花魚跳龍門図鑑	清　康熙窯	鴻禧美術館
33	五彩五魚文大盤	清　康熙窯	鴻禧美術館
34	黄地五彩花鳥文碗	清　康熙窯	鴻禧美術館
35	珊瑚紅地琺瑯彩牡丹文碗	清　雍正窯	鴻禧美術館
36	豆彩牡丹唐草文盤	清　雍正窯	鴻禧美術館
37	青磁象耳壺	清　雍正窯	鴻禧美術館
38	粉彩花虫文盤	清　雍正窯	鴻禧美術館
39	炉鈞釉双耳瓢形瓶	清　雍正窯	鴻禧美術館
40	黄地粉彩瓢蝠文瓢形瓶	清　乾隆窯	南京博物院
41	青花宝相華唐草文双耳扁壺	清　乾隆窯	鴻禧美術館
42	豆彩唐花文双耳瓢形瓶	清　乾隆窯	鴻禧美術館
43	炉鈞釉八角長頸瓶	清　乾隆窯	鴻禧美術館
44	青磁八角長頸瓶	清　乾隆窯	鴻禧美術館
45	青花万寿無彊碗	清　乾隆窯	鴻禧美術館
46	藍地黄彩雲龍文盤	清　乾隆窯	鴻禧美術館
47	霽藍釉梅瓶	清　乾隆窯	鴻禧美術館
48	粉彩百鹿文双耳大壺	清　乾隆窯	南京博物院
49	粉彩唐子文双耳瓶	清　乾隆窯	鴻禧美術館
50	粉彩唐花文水注	清　嘉慶窯	鴻禧美術館
51	珊瑚紅地粉彩梅樹文合子	清　道光窯	鴻禧美術館
52	黄地粉彩花鳥文碗	清　同治窯	鴻禧美術館
53	黄地粉彩花鳥文碗	清　同治窯	鴻禧美術館

第２部　7501工程　毛沢東の器

作品番号	作品名	制作年	所蔵
54	釉下紅梅文筆筒	1975年	個人蔵
55	釉下紅梅文筆洗	1975年	個人蔵
56	釉下紅梅文合子	1975年	個人蔵
57	釉下紅梅文筆添	1975年	個人蔵
58	釉下紅梅文臂搁	1975年	個人蔵
59	釉下紅梅文茶壺	1975年	個人蔵
60	釉下紅梅文蓋杯	1975年	個人蔵
61	釉下紅梅文托	1975年	個人蔵
62	釉下紅梅文蓋杯	1975年	個人蔵
63	釉下紅梅文托	1975年	個人蔵
64	釉下紅梅文煙草入れ	1975年	個人蔵
65	釉下紅梅文灰皿	1975年	個人蔵
66	釉下紅梅文灰皿	1975年	個人蔵
67	釉下紅梅文手付蓋物	1975年	個人蔵
68	釉下紅梅文手付蓋物	1975年	個人蔵
69	釉下紅梅文匙（御飯用）	1975年	個人蔵
70	釉下勾辺紅梅文手付蓋物	1975年	個人蔵
71	釉上翠竹紅梅文手付蓋物	1975年	個人蔵
72	釉下紅梅文筆洗	1975年	個人蔵
73	釉下紅梅文筆筒	1975年	個人蔵
74	釉下紅梅文足付皿	1975年	個人蔵
75	釉下紅梅文酢入れ	1975年	個人蔵
76	釉下紅梅文醤油入れ	1975年	個人蔵
77	釉下紅梅文楊枝入れ	1975年	個人蔵
78	釉下紅梅文胡椒入れ	1975年	個人蔵
79	釉下紅梅文蓋付碗（スープ用）	1975年	個人蔵
80	釉下紅梅文水盂	1975年	個人蔵
81	釉下紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
82	釉下勾辺紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
83	釉上水点桃花文蓋付鉢	1975年	個人蔵
84	釉上翠竹紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
85	釉下紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
86	釉下勾辺紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
87	釉上水点桃花文蓋付鉢	1975年	個人蔵
88	釉上翠竹紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
89	釉下紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
90	釉下勾辺紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
91	釉上水点桃花文蓋付鉢	1975年	個人蔵
92	釉上翠竹紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
93	釉下紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
94	釉下勾辺紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
95	釉上水点桃花文蓋付鉢	1975年	個人蔵
96	釉上翠竹紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
97	釉下紅梅文酒杯	1975年	個人蔵
98	釉下紅梅文匙（スープ用）	1975年	個人蔵
99	釉下紅梅文匙（スープ用）	1975年	個人蔵
100	釉下紅梅文皿（点心用）	1975年	個人蔵
101	釉上翠竹紅梅文皿（点心用）	1975年	個人蔵
102	釉上水点桃花文皿（点心用）	1975年	個人蔵
103	釉下紅梅文皿	1975年	個人蔵
104	釉上翠竹紅梅文皿	1975年	個人蔵
105	釉上水点桃花文皿	1975年	個人蔵
106	釉下紅梅文皿（おしぼり用）	1975年	個人蔵
107	釉下紅梅文皿（醤油用）	1975年	個人蔵
108	釉下勾辺紅梅文皿（醤油用）	1975年	個人蔵
109	釉上水点桃花文皿（醤油用）	1975年	個人蔵
110	釉下紅梅文蓋付碗	1975年	個人蔵
111	釉下紅梅文蓋付碗	1975年	個人蔵
112	釉下紅梅文蓋付碗	1975年	個人蔵
113	釉下紅梅文蓋付碗	1975年	個人蔵
114	釉下紅梅文蓋付碗	1975年	個人蔵
115	釉下紅梅文蓋付碗	1975年	個人蔵

116	釉下紅梅文蓋付碗	1975年	個人蔵
117	釉上水点桃花文蓋付碗	1975年	個人蔵
118	釉上水点桃花文蓋付碗	1975年	個人蔵
119	釉上水点桃花文蓋付碗	1975年	個人蔵
120	釉上翠竹紅梅文蓋付碗	1975年	個人蔵
121	釉上翠竹紅梅文蓋付碗	1975年	個人蔵
122	釉下芙蓉文碗	1975年	個人蔵
123	釉下菊花文碗	1975年	個人蔵
124	釉下菊花文托	1975年	個人蔵
125	試作品　釉下紅梅文皿（醤油用）	1975年	個人蔵
126	試作品　釉下紅梅文蓋付鉢	1975年	個人蔵
127	釉下勾辺紅梅文碗および磁片	1975年	個人蔵

2007年度　特別展
ギャラリーⅠ　巡回展

生誕120年 富本憲吉

Tomimoto Kenkichi—A RETROSPECTIVE

会　期：2007年4月7日（土）ー5月27日（日）
観覧料：一般800円、大学生600円、高校生以下無料
主　催：岐阜県現代陶芸美術館、朝日新聞社、岐阜新聞・岐阜放送
協　賛：日本写真印刷、ゆとりスタイル
協　力：富本憲吉記念館、全日本空輸株式会社

■内容

富本憲吉は今より遡ること120年の1886年、奈良県に生を受けました。1904年に東京美術学校（現・東京芸術大学）図案科に入学し、建築を専攻して室内装飾を学びました。在学中からイギリスに留学して、美術館に通っては図案や模様をスケッチし、ウィリアム・モリスやホイッスラーらの工芸思想を具現化した仕事に触れ、影響を受けます。帰国後は、バーナード・リーチ等と親交を結び、やがて奈良の自宅に楽窯を築いて制作を始めました。東京、京都へと移り住む中で、各地の窯を巡り研究を重ね、独自の白磁を完成。色絵磁器、金銀彩へと展開し、1955年には「色絵磁器」で第1回重要無形文化財保持者に認定されます。1963年に他界するまでの約50年間にわたる多彩な活動は、「模様から模様を造るべからず」という信念のもと、独自の模様と形を追求し、工芸の在り方を求めて格闘した遍歴の軌跡でもありました。

今回は、2006年に富本の生誕120年を迎えたことを記念し、未公開の作品を含め、各時代の代表作に、スケッチや絵手紙などの多彩な資料を加え、富本憲吉の全容に迫るものとなりました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌等】
陶磁郎47　［展覧会紹介／2006年8月18日］
ふれんど　あさひ　670号　［展覧会紹介／2007年3月27日］
たじたじ　308号、どきどき　272号
［展覧会紹介／2007年4月3、4日］
City-1　140号　［展覧会紹介／2007年5月1日］

【新聞】
中外日報　26993号　［展覧会紹介／2007年3月15日］
岐阜新聞　［展覧会解説・村山学芸員／2007年3月30日］
朝日新聞　［展覧会評・乾由明／2007年4月3日］
岐阜新聞（県内総合版・東濃地域版）
［展覧会紹介記事・田島豪人／2007年4月8日］
中日新聞（岐阜県版）
［展覧会紹介記事・田村あずみ／2007年4月8日］
岐阜新聞
［展覧会解説・村山学芸員／2007年4月7、11、13、18、21日］
朝日新聞　［展覧会解説・村山学芸員／2007年4月11、12、13日］
朝日新聞　［展覧会評・井上隆生／2007年5月15日］
朝日新聞　［関連事業紹介／2007年5月15日］

【その他】
NHK教育「新日曜美術館　アートシーン」
［展覧会情報／2006年8月27日］
岐阜テレビ「ランチタイムニュース」
［展覧会紹介・村山学芸員出演／2007年4月23日］

■入場者数

6,901人

■関連事業

▶ **講演会「富本憲吉　遠くにありて近き人」**

講　　師：柳原睦夫（陶芸家・大阪芸術大学名誉教授）
日　　時：2007年4月7日（土）午後2時～3時30分
会　　場：セラミックパークMINOイベントホール
入場者数：80人

▶ **講演会「富本憲吉の模様」**

講　　師：森谷美保（そごう美術館主任学芸員）
日　　時：2007年5月19日（土）午後2時～3時30分
会　　場：セラミックパークMINOプロジェクトルーム
入場者数：75人

■印刷物

展覧会図録『生誕120年　富本憲吉展』 312頁
監　修：内山武夫（前国立近代美術館館長）
編　集：京都国立近代美術館、朝日新聞社
印　刷：日本写真印刷株式会社
発　行：朝日新聞社

■巡回会場

京都国立近代美術館	2006年8月1日－9月10日
茨城県陶芸美術館	2006年9月30日－12月3日
世田谷美術館	2007年1月4日－3月11日
岐阜県現代陶芸美術館	2007年4月7日－5月27日
山口県萩美術館・浦上記念館	2007年6月30日－8月19日

■出品リスト

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	楽焼梅に鶯模様鉢（リーチ家窯）	1912年	ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館
2	音楽家住宅設計図案	1908年	東京藝術大学大学美術館
3	梅に鶯鉢原画	1912年	個人蔵
4	渡欧スケッチ	1908－1910年	個人蔵
6	楽焼草花模様コップ	1914年	個人蔵
7	楽焼草花模様皿（2客）	1914年	個人蔵
8	楽焼コップ	1914年	個人蔵
9	白磁壺	1919年	個人蔵
10	白磁八角コーヒーセット(カップ&ソーサー6セット他)	1921年	富本憲吉記念館
11	染付線彫「竹林月夜」模様陶板	1921年	富本憲吉記念館
12	白磁八角鉢	1921年	個人蔵
13	楽焼蓼模様蓋付壺	1922年	個人蔵
14	土焼鉄絵扁壺	1922年	個人蔵
15	染付八角燭台（1対）	1922年	個人蔵
16	瑠璃釉小壺	1923年	個人蔵
17	土焼芍薬模様扁壺	1924年	個人蔵
18	染付「老樹」模様陶板	1924年	個人蔵
19	土焼刷毛目鉄絵荻模様組鉢	1925年	個人蔵
21	土焼鉄描銅彩大和風景大皿	1929年	滋賀県陶芸の森陶芸館
22	銀襴手大飾壺	1929年	京都国立近代美術館
23	天目釉蝋抜芍薬模様大壺	1930年	個人蔵
25	白磁八角蓋付壺	1931年	個人蔵
27	白磁八角壺	1932年	奈良県立美術館
28	赤地金彩梅花模様蓋付小壺	1932年	個人蔵
29	白磁蓋付中壺	1932年	個人蔵
30	白磁壺	1933年	京都国立近代美術館
31	染付銅彩魚貝模様大鉢	1933年	京都国立近代美術館
32	染付絵変皿（10枚組）	1933年	京都国立近代美術館
33	色絵八角徳利	1933年	個人蔵
34	白磁珈琲器	1933年	東京国立近代美術館
35	土焼イッチン柳模様皿（6客）	1934年	個人蔵
36	赤絵羊歯模様大角陶板	1935年	奈良県立美術館
37	色絵ノウゼンカヅラ模様角皿	1936年	個人蔵
38	色絵金彩更紗模様飾筥	1936年	富本憲吉記念館
39	色絵唐花草模様八角皿（10客）	1936年	個人蔵
40	色絵四弁花模様角筥	1936年	個人蔵
41	鉄絵「竹林月夜」模様角皿	1937年	岐阜県現代陶芸美術館
42	色絵更紗模様飾壺	1937年	金沢美術工芸大学
43	色絵四弁花模様飾壺	1937年	個人蔵
44	色絵赤更紗模様飾壺	1937年	個人蔵
45	色絵丸模様八角飾皿	1938年	富本憲吉記念館
46	色絵スベリヒユ模様大皿	1938年	奈良県立美術館
47	色絵五弁花模様蓋付小壺	1938年	個人蔵
48	色絵芦の芽模様大皿	1938年	金沢美術工芸大学
49	色絵薊模様角皿	1938年	東京国立近代美術館
51	赤地金彩薊模様飾筥	1939年	個人蔵
52	色絵「春夏秋冬」字瓢形飾壺	1939年	奈良県立美術館
53	柿釉色絵四弁花模様蓋付小壺	1939年	サントリー美術館
54	白磁鉢	1939年	京都国立近代美術館
55	色絵四弁花模様角飾筥	1940年	東京藝術大学大学美術館
56	色絵洋蘭とアジャンタム模様大陶板	1940年	個人蔵
57	色絵野菜模様大陶板	1941年	サントリー美術館

58	色絵支那籠に芥子模様大飾皿	1941年	石川県立美術館
59	色絵四弁花更紗模様飾筥	1941年	個人蔵
60	色絵椿模様飾筥	1941年	京都国立近代美術館
61	色絵椿模様大飾筥	1941年	サントリー美術館
62	色絵羊歯模様六角大飾筥	1941年	個人蔵
63	色絵飾筥	1941年	個人蔵
64	色絵円に花模様飾筥	1941年	奈良県立美術館
65	色絵染付斜線市松模様角香炉	1941年	個人蔵
66	染付麦藁手八角蓋物	1941年	個人蔵
67	白磁大壺	1941年	岐阜県現代陶芸美術館
68	色絵四弁花模様飾壺	1941年	個人蔵
69	色絵染付菱小格子文長手筥	1941年	東京国立近代美術館
70	色絵更紗模様中皿	1941年	京都国立近代美術館
71	色絵薊模様飾筥	1942年	個人蔵
73	染付色絵菱模様飾筥	1944年	石川県立美術館
74	柿釉色絵斜線丸模様水差	1944年	個人蔵
75	色絵更紗模様飾壺	1944年	個人蔵
76	色絵更紗模様瓢形飾壺	1944年	個人蔵
77	色絵竹と菱更紗模様瓢形大壺	1945年	富本憲吉記念館
80	色絵「竹林月夜」に薊模様大皿	1946年	うらわ美術館
81	色絵百日草に語句陶板	1947年	個人蔵
82	色絵柘榴に語句円陶板	1948年	奈良県立美術館
83	色絵木蓮と語句陶板	1949年	個人蔵
84	色絵染付斜線模様六角捻徳利	1949年	個人蔵
85	赤地金彩六角捻徳利	1949年	個人蔵
86	色絵六角徳利（1対）	1949年	個人蔵
87	赤地金彩六角徳利（1対）	1949年	富本憲吉記念館
88	色絵四弁花更紗模様大鉢	1949年	個人蔵
90	色絵徳利に椿模様陶板	1949年	個人蔵
91	色絵芦模様大皿	1949年	個人蔵
92	色絵「風花雪月」字大鉢	1949年	個人蔵
93	色絵更紗六角捻り徳利（1対）	1949年	京都国立近代美術館
94	色絵山帰来に語句陶板	1949年	京都国立近代美術館
95	土焼御本手染付「竹林月夜」模様角皿	1950年	個人蔵
96	赤地金彩菱模様蓋付飾壺	1950年	個人蔵
98	色絵「風花雪月」字角皿	1950年	神宮徴古館
99	色絵山茶花模様角香炉	1950年	個人蔵
100	色絵染付竹に語句角香炉	1951年	個人蔵
101	土焼鉄描銅彩「花」字飾皿	1951年	個人蔵
102	色絵赤更紗模様角瓶	1951年	個人蔵
103	色絵「富貴」字角皿（5種）	1951年	個人蔵
104	色絵「風花雪月」字角皿（4客）	1951年	東京国立近代美術館
105	土焼粟田色絵金彩香炉	1952年	個人蔵
106	色絵柘榴模様香炉	1952年	個人蔵
107	銅緑釉丸紋大皿	1952年	個人蔵
108	鉄描銅彩「風花雪月」字湯呑（5客）	1952年	個人蔵
109	色絵岩に万年青「平常心」字皿	1952年	個人蔵
110	色絵円紋菱模様大飾皿	1952年	茨城県立陶芸美術館
111	色絵赤地銀彩柘榴模様陶板	1952年	個人蔵
112	土焼鉄描銅彩「白雲悠々」字大皿	1953年	兵庫陶芸美術館
113	色絵壺に椿花模様陶板	1953年	個人蔵
114	赤地銀彩羊歯模様蓋付飾壺	1953年	京都国立近代美術館
116	色絵更紗丸模様角瓶	1954年	個人蔵
117	色絵澤薊模様中皿（5客）	1954年	個人蔵
118	色絵煎茶器（1組）	1954年	個人蔵
119	色絵赤更紗模様蓋付飾壺	1954年	在英国日本国大使館
120	金銀彩菱模様香炉	1954年	個人蔵
121	色絵麦藁手香炉	1954年	個人蔵
122	赤地金銀彩煎茶碗（5客）	1955年	個人蔵
123	色絵菱模様大飾皿	1955年	個人蔵
124	色絵金銀彩四弁花模様八角飾筥	1955年	東京国立近代美術館
125	色絵四弁花模様蓋付飾壺	1955年	石川県立美術館
126	土焼粟田色絵金彩羊歯模様飾壺	1955年	個人蔵
127	土焼銅彩大鉢	1955年	個人蔵
128	瑠璃刷毛目金彩「竹林月夜」模様小壺	1955年	個人蔵
129	色絵麦藁手湯呑（5客）	1955年	個人蔵
130	色絵金銀彩四弁花模様蓋付壺	1956年	兵庫陶芸美術館
131	色絵金銀彩染付「白雲悠々」字大飾皿	1957年	個人蔵
132	色絵染付牡丹と語句大陶板	1957年	個人蔵
133	赤地金銀彩四弁花香炉	1957年	個人蔵
135	色絵金銀彩「壽」字香炉	1957年	個人蔵
136	色絵金銀彩染付風景文字模様飾壺	1957年	東京国立近代美術館
137	色絵羊歯模様角瓶	1957年	個人蔵
138	色絵金彩絵変箸置（5客）	1957年	個人蔵
139	色絵四弁花灰皿	1957年	個人蔵
140	染付「風花雪月」字灰皿	1957年	個人蔵
141	色絵「花」と「富貴」字灰皿（2種）	1957年	個人蔵
142	色絵金彩染付「竹林月夜」模様大陶板	1958年	個人蔵
143	色絵紫四弁花模様飾筥	1958年	個人蔵
145	色絵金銀彩菱模様香炉	1958年	富本憲吉記念館
146	赤地金銀彩菱模様香炉	1958年	個人蔵
147	赤地金銀彩菱模様香炉	1958年	個人蔵
148	色絵柳模様に寒山詩陶板	1958年	個人蔵
149	色絵金銀彩染付「風花雪月」字大飾皿	1958年	個人蔵
150	色絵「花」字珈琲碗（6客）	1958年	個人蔵
152	色絵金銀彩羊歯模様八角飾筥	1959年	東京国立近代美術館
153	色絵金銀彩四弁花模様八角飾筥	1959年	個人蔵
154	色絵金彩「大和川急雨」と薊模様大飾皿	1959年	個人蔵
155	色絵染付牡丹と語句十角大飾皿	1959年	個人蔵
156	色絵金銀彩染付「竹林月夜」模様大飾皿	1959年	東京国立近代美術館
158	色絵金銀彩染付「村落遠望」模様大陶板	1959年	富本憲吉記念館

159	色絵金彩染付「大和川急雨」模様大陶板	1959年	個人蔵
160	色絵金銀彩染付「風花雪月」字大陶板	1959年	個人蔵
161	白磁角筥（内部：赤地金銀彩羊歯模様）	1959年	富本憲吉記念館
162	色絵染付菱模様煎茶器（1組）	1959年	個人蔵
163	色絵絵変巻紙形箸置（12客）	1959年	個人蔵
164	染付「風花雪月」字小陶板（3種）	1959年	個人蔵
165	白磁陶硯	1959年	個人蔵
166	色絵「春夏秋冬」字灰皿	1959年	個人蔵
167	色絵菱模様灰皿	1959年	個人蔵
168	色絵金銀彩羊歯模様角瓶	1959年	出光美術館
169	色絵金銀彩四弁花模様香盒	1960年	個人蔵
170	色絵染付「春夏秋冬」字香盒	1960年	個人蔵
171	色絵金銀彩「風花雪月」字角盒（2合）	1960年	個人蔵
174	色絵金銀彩四弁花模様大飾皿	1960年	東京国立近代美術館
175	金銀彩羊歯市松模様飾筥	1960年	個人蔵
176	色絵金彩羊歯模様飾筥	1960年	個人蔵
177	金銀彩四弁花模様飾筥	1960年	個人蔵
179	色絵金銀彩四弁花模様飾壺	1960年	岐阜県現代陶芸美術館
180	色絵金彩羊歯模様大飾壺	1960年	京都国立近代美術館
181	金銀彩羊歯模様胴紐飾壺	1960年	個人蔵
182	色絵金彩羊歯模様大飾皿	1960年	出光美術館
184	金彩染付羊歯模様飾筥	1960年	個人蔵
185	色絵金彩染付絵変中皿（5客）	1960年	東京国立近代美術館
186	金彩描きおこし羊歯模様香炉	1960年	個人蔵
187	色絵金銀彩羊歯模様六角飾筥	1961年	東京国立近代美術館
188	染付金彩羊歯模様六角飾筥	1961年	個人蔵
189	赤地金彩羊歯模様飾筥	1961年	個人蔵
190	色絵金銀彩羊歯模様飾筥	1961年	個人蔵
191	赤地金銀彩菱四弁花模様六角飾筥	1961年	個人蔵
192	赤地金銀彩澤蘭模様六角飾筥	1961年	個人蔵
193	色絵金銀彩染付「富貴」字大飾皿	1961年	個人蔵
194	色絵金銀彩染付牡丹の蕾模様大飾皿	1961年	個人蔵
195	赤地金銀彩麦藁模様香炉	1961年	個人蔵
196	白磁香炉	1961年	個人蔵
197	色絵金銀彩染付柘榴に語句角陶板	1961年	個人蔵
198	色絵金銀彩染付語句角陶板	1961年	個人蔵
199	赤地金銀彩飾小筥	1962年	個人蔵
200	金銀彩菱模様飾小筥	1962年	個人蔵
201	金銀彩描きおこし羊歯模様飾筥	1962年	個人蔵
202	金銀彩描きおこし四弁花模様飾筥	1962年	個人蔵
203	赤地金銀彩「春夏秋冬」字飾壺	1962年	個人蔵
204	色絵金銀彩菱四弁花模様蓋付飾壺	1962年	茨城県陶芸美術館
205	色絵竹模様に自作語句角陶板	1962年	個人蔵
206	陶印（28種）	制作年不詳	個人蔵
207	赤地金彩羊歯模様蓋付飾壺（未完）	1962年	京都市立芸術大学
210	木下杢太郎『和泉屋染物店』（装幀）	1912年	富本憲吉記念館
211	うちわ（2種）	1912年頃	個人蔵
214	彩色木版画　キツネのカミソリ	1915年頃	個人蔵
215	木版画　薊文	1915年頃	個人蔵
216	木版画　芍薬文	1915年頃	個人蔵
217	『とりで』2号（表紙）	1913年	富本憲吉記念館
218	『富本憲吉模様集（三冊）』と“原画5枚”	1913−25年	個人蔵
219	『番紅花』原版画	1914年	個人蔵
219	『番紅花』1号（表紙）、3号（表紙）	1914年	富本憲吉記念館
220	『卓上』1、2、3、4号（表紙）	1914−15年	富本憲吉記念館
222	『富本憲吉模様集第一』	1915年	富本憲吉記念館
223	蔵書章	1915年頃	富本憲吉記念館
224	模様巻	1919年	個人蔵
225	冬春模様帖	1921年	個人蔵
227	素描　水注	1922年頃	富本憲吉記念館
228	素描　青磁唐草紋瓶	1922年頃	富本憲吉記念館
230	武蔵野絵巻	1927年	富本憲吉記念館
231	陶片集	1930年	個人蔵
232	模様寸感	1931年	個人蔵
233	草花図巻	1932年	京都国立近代美術館
235	鹿澤初秋草花図	1934年	個人蔵
237	素描　貝4種	1933年頃	富本憲吉記念館
238	素描　四弁花模様中皿	制作年不詳	富本憲吉記念館
239	成城学園卒業記念ブローチ	1932−44年	成城学園
241	葉模様市松デザイン	制作年不詳	富本憲吉記念館
244	茶碗拾題	1945年	個人蔵
246	自作陶器図	1945年	個人蔵
248	輸出陶器図案集（草案）	1947年	富本憲吉記念館
250	老残作陶器帖	1948年	個人蔵
251	自作陶器図五拾種	1950年	個人蔵
252	瑠璃金彩小壺	1950年	個人蔵
253	自作陶器図案百種	1953年	富本憲吉記念館
261	飾壺之図	1958年	個人蔵
266	飾壺竹林月夜	制作年不詳	富本憲吉記念館
267	自作陶器百図（4冊）	制作年不詳	個人蔵
268	竹林月夜二題図	制作年不詳	富本憲吉記念館
269	色絵赤地金銀彩大鉢之図	1950年頃	個人蔵
270	「花」	制作年不詳	個人蔵
271	鉄線花と竹籠	制作年不詳	個人蔵
274	着物	戦前	富本憲吉記念館
277	帯	1946年	富本憲吉記念館
278	帯留	1939−40年	個人蔵
279	色絵帯留ブローチ	1946−50年	個人蔵
280	木版画　うちわ図	1960年	富本憲吉記念館
281	バーナード・リーチ	1914年	京都国立近代美術館
282	バーナード・リーチ宛の書簡と絵葉書		富本憲吉記念館

283	水木要太郎宛の絵葉書	1904－10年	富本憲吉記念館
284	白瀧幾之助宛の絵葉書		富本憲吉記念館
285	野島康三「富本憲吉肖像写真」	1925年	個人蔵
286	野島康三「富本憲吉記録写真」		京都国立近代美術館
287	伊藤助右衛門宛の書簡と絵葉書		個人蔵
288	色絵書簡　菓子ガラス鉢	1941年	個人蔵
289	蔵書章	制作年不詳	個人蔵
290	『小さき泉』壱、弐、参、四、五	1922－1923年	富本憲吉記念館
292	放送原稿	1940年	東京藝術大学大学美術館
293	陶器雑感	1938年	個人蔵
295	安騎東野『向日葵』（装幀：四弁花模様）	1941年	富本憲吉記念館
296	展覧会目録高島屋	1947年	個人蔵
297	『富本憲吉画集』（表紙：竹林月夜模様）	1948年	富本憲吉記念館
298	富本作陶印譜	1950年	富本憲吉記念館

2007年度　特別展
ギャラリーⅠ　巡回展

岡部嶺男展－青磁を極める－

Mineo Okabe－A Retrospective－

会　期：2007年7月14日（土）－9月30日（日）
観覧料：一般800円、大学生600円、高校生以下無料
主　催：岐阜県現代陶芸美術館、NHK岐阜放送局、NHK中部ブレーンズ、中日新聞社

■内容

本展覧会は近代陶芸の巨匠のひとりとして名をしられながらも四半世紀近くにわたり、まとまった紹介がなされてこなかった岡部嶺男（1919～1990）の作陶活動を回顧したものです。陶磁器の産地、愛知県瀬戸市に陶芸家・加藤唐九郎の長男として生まれた岡部は幼少より陶磁器に親しみ、復員後本格的に作陶活動を再開すると、織部、志野、黄瀬戸、灰釉、鉄釉などの地元の伝統技法をもとに作域を広げていきました。なかでも器体の全体に、自らの情熱を叩きつけたかのように縄文を施した織部や志野の作品は独自性も強く、そのエネルギー溢れる作品は高い評価を得ました。その後、意欲的な作陶姿勢は青瓷の研究へと向けられ、粉青瓷、翠青瓷、窯変米色青瓷など、「嶺男青瓷」と呼ばれる独自の釉調や釉色の青瓷釉をまとう作品を生み出していきます。本展覧会では初期から晩年までの作品約170点を一堂に展観し、古典の単なる模倣を超えて、自らの美意識を作品に写し出すことに生涯をかけた岡部嶺男の軌跡を紹介しました。

また当会場のみの特別展示として、地元所蔵家の協力を得て、「岐阜会場　特別展示－もうひとつの岡部嶺男展」も会期を合わせて開催しました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】
現代の眼　562　東京国立近代美術館ニュース
［展覧会解説・渡部学芸部長／2007年2月1日］
Chat　92号　［展覧会情報／2007年6月25日］
おりべくらぶ　vol.37　［展覧会情報／2007年6月29日］
陶説　652号　［展覧会・講演会情報／2007年7月1日］
たじたじ　311号　［展覧会紹介／2007年7月3日］
どきどき　275号　［展覧会紹介／2007年7月4日］
東濃新報　2279号　［展覧会紹介／2007年7月26日］
炎芸術　91号　［展覧会情報／2007年8月1日］
たじたじ　312号　［展覧会紹介／2007年8月7日］
月刊　書道界　［展覧会紹介／2007年8月15日］
ぴあ（中部版）493号　［展覧会情報／2007年9月6日］
たじたじ　314号　［展覧会紹介／2007年10月2日］

【新聞】
中日新聞（東濃総合版）　［展覧会広告／2007年7月4日］
岐阜新聞（地域総合版）　［展覧会情報／2007年7月6日］
朝日新聞（夕刊）　［展覧会情報／2007年7月11日］
中日新聞（夕刊）　［展覧会情報／7月12日］
中日新聞（夕刊）
［展覧会解説・渡部副館長兼学芸部長／2007年7月12日］
中日新聞（夕刊）　［展覧会紹介／2007年7月14日］
岐阜新聞（東濃版）
［展覧会紹介・田島豪人／2007年7月15日］
中日新聞（岐阜県版）
［展覧会紹介記事・小西数紀／2007年7月15日］
中日新聞　［展覧会紹介記事・田村あずみ／2007年7月22日］
中日新聞（東濃版）
［展覧会解説・佐野学芸員／2007年8月14、15、17、18、19日］
朝日新聞　［展覧会評・井上隆生／2007年8月28日］
中日新聞（岐阜総合版）
［展覧会紹介記事・清水祐樹／2007年9月8日］

【その他】
岐阜テレビ「夕がた屋テ！」　［展覧会情報／2007年7月9日］
NHK総合「ほっとイブニングぎふ」
［展覧会紹介・佐野学芸員／2007年7月26日］
NHK総合「さらさらサラダ」
［展覧会紹介・佐野学芸員／2007年8月30日］
NHK総合「ほっとイブニングぎふ」
［展覧会紹介／2007年9月7日］
NHK総合「ほっとイブニングぎふ」
［展覧会紹介／2007年9月12日］

■入場者数
8,555人

■関連事業
▶ **講演・対談**
「父、岡部嶺男を語る」
講　　師：岡部美喜
聞き手(対談)：渡部誠一（当館副館長兼学芸部長）
日　　時：2007年7月21日（土）午後2時～午後3時30分
会　　場：セラミックパークMINOイベントホール
入 場 者 数：100人

■印刷物
展覧会図録『青磁を極める－岡部嶺男展』 236頁
編　集：東京国立近代美術館　金子賢治　唐澤昌宏　北村仁美
山口県立萩美術館・浦上記念館　石崎泰之
NHK中部ブレーンズ　吉田南都子　大西亜希
翻　訳：ダレン・ダモンテ　スーシー・S・マクレリー　山本仁志
写　真：尾見重治（エス・アンド・ティ・フォト）
印　刷：ニューカラー写真印刷株式会社
発　行：NHK中部ブレーンズ

■巡回会場

東京国立近代美術館工芸館	2007年3月6日－5月20日
松坂屋美術館	2007年6月27日－7月10日
岐阜県現代陶芸美術館	2007年7月14日－9月30日
山口県立萩美術館・浦上記念館	2007年10月17日－12月6日
兵庫陶芸美術館	2007年12月15日－2008年3月2日
茨城県陶芸美術館	2008年7月5日－2008年9月7日

■出品リスト

第1章　灰釉系技法の確立と展開：「平戸橋時代」

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	粉引草花文壺	1949年	
2	織部柘榴文皿	1950年	
3	青織部唐人傘花生	1953年	
4	志野花器	1953年	
5	色絵壺	1954年	
6	青織部壺	1954年	
7	志野縄文壺	1954年	
8	青織部縄文瓶	1955年頃	
9	青織部縄文鼎	1955年頃	
10	青織部縄文平壺	1956年頃	
11	青織部縄文塊	1956年	
12	紅志野縄文瓶	1956年	
13	練込志野縄文花器	1956年	東京国立近代美術館
14	鼠志野花瓶	1959年	
15	灰釉窯変鉢	1960年	ポーラ美術館
16	青織部壺	1961年	
17	青織部窯変鉢	1961年頃	
18	灰釉瓶子	1962年	
19	灰釉練上瓶子	1962年	
20	灰釉黒瓶子	1962年	
21	灰釉黒窯変瓶子	1962年	
22	青織部瓶	1962年	
23	織部丸壺	1963年	
24	織部平鉢	1963年	

25	織部平鉢	1963年	
26	織部縄文瓶	1964年	
27	織部広口壺	1965年頃	
28	織部大筒	1967年	
29	古瀬戸釉蓋壺	1967年	
30	古瀬戸釉蓋壺	1967年	
31	古瀬戸灰釉縄文瓶	1968年	
32	灰釉壺	1970年	
33	井戸手茶碗	1950年頃	
34	伊羅保茶碗	1950年頃	
35	鼠志野茶碗	1950年頃	
36	備前茶碗	1956年	
37	絵志野茶碗　銘　岩清水	1957年	木村茶道美術館
38	絵志野小服茶碗	1958年	
39	織部茶碗	1958年頃	
40	瀬戸黒小服茶碗	1959年	
41	瀬戸黒茶碗	1960年	
42	灰釉茶碗	1960年頃	
43	飴釉茶碗	1961年	
44	織部窯変茶碗	1961年	
45	紅志野茶碗	1962年	
46	灰釉茶碗	1962年頃	
47	紅志野茶碗	1966年	
48	絵志野水指	1952年	
49	黄瀬戸水指	1953年頃	
50	絵志野水指	1958年	
51	黄瀬戸水指	1963年	
52	織部水指	1965年	
53	古瀬戸釉水指	1968年	
54	伊賀掛花生	1958年	
55	黄瀬戸花生	1959年	
56	絵志野花生	1960年	
57	絵志野一輪挿	1960年頃	
58	織部一輪挿	1962年	
59	黄瀬戸一輪挿	1962年	
60	織部花生	1963年頃	
61	織部鶴首花生	1963年頃	
62	三島手皿	1950年	
63	粉引葡萄文角皿	1951年	
64	絵志野土瓶	1956年頃	
65	絵志野筒湯呑	1956年頃	
66	青織部筒湯呑	1958年	
67	青織部銅羅鉢	1958年	
68	織部煙管	1958年	
69	織部煙管	1958年	
70	織部煙管	1958年	
71	絵志野湯呑	1958年	
72	絵志野筒向付	1958年	
73	紅志野丸皿	1958年	
74	紅志野銅羅鉢	1959年	
75	青織部土瓶	1959年	
76	青織部長皿	1961年	
77	青織部角鉢	1961年	
78	鼠志野角鉢	1961年	
79	絵志野角皿	1961年頃	
80	鼠志野角皿	1961年頃	
81	黄瀬戸徳利	1962年	
82	青織部輪花鉢	1963年頃	
83	黄瀬戸輪花鉢	1963年頃	
85	志野織部手鉢	1965年	
86	志野織部皿	1965年	
87	黄瀬戸盃	1950年頃	
88	粉引盃	1950年頃	
89	黄瀬戸盃	1962年	
90	灰釉盃	1962年	
91	天目盃	1965年頃	
92	絵志野盃	1966年	
93	紅志野盃	1966－67年	

第２章　天目への憧れ

作品番号	作品名	制作年	所蔵
94	窯変天目茶盌	1963年	
95	燿窯天目盌	1968年頃	
96	天目盌	1975年	
97	窯変天目盌	1987年	
98	窯変嶺燦盌	1987年	
99	窯変嶺紫盌	1987年	
100	古瀬戸釉小壺	1970年頃	

第３章　青瓷の美：「日進時代」

作品番号	作品名	制作年	所蔵
101	粉紅瓷砧	1965年	ポーラ美術館
102	粉青瓷砧	1966年	
103	粉青瓷砧	1966年	
104	粉青瓷砧	1968年	
105	粉青瓷砧	1969年	ポーラ美術館
106	粉青瓷大砧	1969年	
107	粉青瓷大砧	1969年	
108	粉青瓷砧	1969年	
109	粉青瓷砧	1969年	
110	窯変米色瓷砧	1971年	

111	窯変米色瓷砧	1971年	
112	窯変米色瓷砧	1971年	
113	窯変米色瓷双耳砧	1974年	
114	粉青瓷双耳砧	1974年頃	
115	窯変粉青瓷双耳砧	1975年	
116	窯変翠青瓷砧	1975年	メナード美術館
117	粉青瓷筒	1967年	
118	天青瓷筒	1974年	
119	窯変米色瓷瓶	1973年	
120	翠青瓷大瓶	1974年	
121	粉青瓷大瓶	1974年	
122	粉青瓷瓶	1974年	
123	翠青瓷縄文瓶	1968年	
124	翠青瓷鼎	1968年	
125	青瓷茶碗	1963年頃	
126	粉青瓷盌	1966年	
127	窯変米色瓷盌	1966年	
128	月白瓷盌	1966年	
129	粉青瓷盌	1967年頃	
130	粉青瓷盌	1967年頃	ポーラ美術館
131	窯変米色瓷盌	1968年	
132	粉青瓷茶盌	1967年頃	
133	灰青瓷盌	1968年頃	東京国立近代美術館
134	灰青瓷茶盌	1968年頃	
135	窯変米色瓷盌	1968年頃	
136	窯変米色瓷盌	1968年頃	
137	窯変米色瓷盌	1970年	
138	窯変米色瓷盌	1970年	
139	窯変油灰瓷盌	1970年頃	
140	窯変米色瓷盌	1970年頃	
141	粉青瓷盌	1971年頃	
142	窯変米色瓷茶盌	1971年頃	
143	粉青瓷茶盌	1973年	
144	翠青瓷茶盌	1973年	
145	窯変翠青瓷盌	1973年	
146	窯変翠青瓷盌	1973年	
147	窯変米色瓷盌	1973年	
148	窯変米色瓷盌	1974年	
149	窯変米色瓷茶盌	1977年	
150	翠青瓷大盌	1968年	
151	粉青瓷大鉢	1968年	
152	翠青瓷大盌	1970年頃	
153	粉青瓷炉	1970年	
154	窯変米色瓷炉	1971年	
155	窯変米色瓷博山炉	1971年	
156	窯変米色瓷博山炉	1971年	
157	窯変米色瓷博山炉	1973年	
158	粉青瓷博山炉	1974年	
159	窯変米色瓷小壺	1970年頃	
160	粉青瓷合子	1968年頃	
161	粉紅瓷盃	1965年	
162	窯変米色瓷盃	1965年	
163	秘色瓷盃	1966年	
164	粉青瓷盃	1966年	
165	天青瓷盃	1967年頃	
166	天青瓷盃	1967年頃	
167	窯変米色瓷盃	1970年頃	
168	粉青瓷盃	1972年頃	
169	粉紅瓷盃	1973年頃	
170	窯変米色瓷盃	1973年頃	
171	窯変米色瓷盃	1974年頃	
172	粉青瓷盃	1975年	
173	窯変翠青瓷盃	1975年	
174	書「生火山人」		
175	軸「土生火生」		
176	書「壷愁」		

岐阜会場　特別展示－もうひとつの岡部嶺男展（ギャラリーⅠ内展示室10・11）

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	書「美根尾」（小山冨士夫　作）	不詳	
2	書「火生土生」	不詳	
3	窯変米色瓷双耳砧	1976年	
4	絵志野茶碗	1959年頃	
5	鼠志野茶碗	1964年頃	
6	井戸梅華皮茶碗	1950年頃	
7	灰釉水指	1969年頃	
8	黄瀬戸手鉢	1965年	
9	青織部広口花生	1965年	
10	絵志野花生	不詳	
11	焼締水指	不詳	
12	青織部瓶子	1963年	
13	灰釉昭和銘瓶子	1961年	
14	飴釉瓶子	1961年	
15	窯変米色瓷博山炉	1973年	
16	粉青瓷砧	1968年頃	
17	平戸窯五色皿	1961年	
18	青織部縄文塊	1955年	
19	灰釉縄文壺	1968年頃	
20	釉彩皿	1951年	
21	青織部変形花器	1953年	

2007年度　特別展
ギャラリーⅠ　自主企画

じゃんけんぽんの考え方ー勝ち負けのない共存

Asian Ceramic Delta—Korea,Taiwan and Japan

会　　期：2007年10月13日（土）ー12月16日（日）
観　覧　料：一般800円、大学生600円、高校生以下無料
主　　催：岐阜県現代陶芸美術館
共　　催：財団法人世界陶磁器エキスポ（韓国）、臺北縣立鶯歌陶瓷博物館（台湾）
助成・協力：財団法人地域創造、（財）田口福寿会、東濃信用金庫、
　　財団法人廣達文教基金會、遠雄企業團
後　　援：駐日韓国大使館、韓国文化院

■内容

21世紀に入り、利川（韓国）、鶯歌（中国）、岐阜（日本）の3地域で、陶芸専門の展示施設が相次いで開設され、国際的な規模のコンペティションが行われるようになりました。この数年間に、世界中の陶芸愛好家らが訪れ、陶芸家らも行き交うようになり、それぞれのやきもの文化はリアルタイムで発信されつづけ、活況を呈しています。

このような状況に対応するように、今後の更なる発展と協働、共存を目的として、財団法人国際陶磁器エキスポと台湾県立鶯歌陶磁博物館、岐阜県現代陶芸美術館は陶磁文化協定を締結しました。アジア3地域の陶磁文化の相互理解と交流の推進を目的に、陶磁文化交流プロジェクトを開始し、最初の第一歩として、それぞれのやきものの現況を紹介する巡回展を開催することにしたのです。

論争やゲームで決着が付かない場合、西欧社会では、コイン投げという「裏か表か」の二者択一の方法で決定します。しかしアジアのこどもたちの間でも行われているジャンケンは、グー・チョキ・パー。相手次第で、勝ちにも負けにもなり、また「あいこ」になる場合もあります。共存の方法としてのジャンケン・コードを選択し、巡回展のタイトルを「じゃんけんぽんの考え方ー勝ち負けのない共存」としたのです。

純粋な造形志向の作品、伝統的な技術による作品、食文化が反映された実用性のある作品、ライフスタイルの変化に伴うデザイン作品など、年齢、性別、志向にこだわらずやきものの混沌とした様相を紹介し、作家の選出には、各地域とも、3施設のキュレーターがそれぞれの地域を訪れて、作家にインタビューし決定しました。

巡回展による3施設からの発信は、アジア伝統芸術文化であるやきものの現状と、アジアに根ざす補完関係のあり方を世界に示す機会となったといえるでしょう。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】
ぎふトゥデイ　477号　［展覧会紹介／2007年9月1日］
たじたじ　314号　［展覧会紹介／2007年10月2日］
地域創造レター　150号　［展覧会紹介／2007年9月25日］
くらしと県政ぎふ　［展覧会紹介／2007年10月1日］
陶説　655号　［展覧会紹介／2007年10月1日］
chat　96号　［展覧会紹介／2007年10月25日］
月刊ぷらざ　［展覧会紹介／2007年11月1日］
書道界　［展覧会紹介／2007年11月15日］
Art Journal Vol.54　［展覧会紹介／2007年11月20日］
Chat　97号　［展覧会紹介／2007年11月25日］
スッカラ　Vol.24　［展覧会紹介／2007年12月1日］
【新聞】
中外日報　27066号　［展覧会紹介／2007年9月22日］
朝日新聞　［展覧会紹介／2007年9月25日］
東洋経済日報　［展覧会紹介記事／2007年9月28日］
中日新聞　［展覧会紹介記事・清水祐樹／2007年10月9日］
朝日新聞　［展覧会紹介記事・本間久志／2007年10月10日］
中日新聞　［展覧会紹介／2007年10月13日］
岐阜新聞　［展覧会紹介記事・各務勝／2007年10月14日］
中日新聞　［展覧会紹介／2007年10月14日］
朝日新聞　［展覧会紹介／2007年10月14日］
北日本新聞　［展覧会紹介／2007年10月16日］
岐阜新聞　［展覧会紹介／2007年10月18日］
中日新聞　［関連事業紹介記事／2007年10月21日］
中日新聞　［展覧会紹介／2007年2006年10月28日］
中日新聞　［展覧会紹介記事・小西数紀／2006年10月29日］
朝日新聞　［展覧会評・井上隆生／2007年11月28日］
朝日新聞　［展覧会評価記事／2007年12月18日］

■入場者数

2,707人

■関連事業

▶ **講演会**
「ジャンケンから見たアジアの新しい文明」

講　　師：李御寧（イ・オリョン／韓国初代文化相）
日　　時：2007年10月13日（土）　午後2時～3時30分
会　　場：セラミックパークMINO国際会議場
入場者数：158人

■印刷物

展覧会図録『じゃんけんぽんの考え方－勝ち負けのない共存』 136頁
編集・執筆：高満律子
デザイン：小寺克彦
印　　刷：西濃印刷株式会社
発　　行：岐阜県現代陶芸美術館

■巡回会場

利川世界陶磁センター（韓国）　2006年9月26日－13月31日
臺北縣立鶯歌陶磁博物館（台湾）　2007年2月6日－6月3日

■出品リスト

作品番号	作品名	作品名	制作年	所蔵
1	方徹柱	青磁珠文梅瓶	2003年	
2	方徹柱	青磁波文壷	2004年	
3	方徹柱	青磁縞文瓶	2001年	
4	方徹柱	青磁垂桜文壷	2003年	
5	孫超	追跡	2005年	
6	孫超	時空に掠れて	1993年	
7	孫超	春到来	1989年	
8	鈴木藏	志埜茶盌	1994年	
9	鈴木藏	志野大皿	1990年	
10	鈴木藏	志野花入	1995年	
11	鈴木藏	志野花器	1973年	
12	金益寧	非対称器の連作	2006年	
13	金益寧	縦の存在	2006年	
14	蔡榮祐	ありのまま（六）	1998年	
15	蔡榮祐	ありのまま（三）	2004年	
16	蔡榮祐	ありのまま（五）	2004年	
17	中村卓夫	SUIHATU	2003年	
18	中村卓夫	SUIHATU	2003年	
19	中村卓夫	TATARA	2006年	
20	中村卓夫	燭台	2006年	
21	中村卓夫	燭台	2006年	
22	中村卓夫	燭台	2006年	
23	中村卓夫	水指	2006年	
24	中村卓夫	TARUKI	2006年	
25	中村卓夫	たひらぎ	1999年	
26	前田昭博	白瓷捻面取壷	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
27	前田昭博	白瓷壷	2001年	
28	前田昭博	白瓷捻壷	2003年	
29	前田昭博	白瓷面取壷	2005年	
30	前田昭博	白瓷捻壷	1997年	
31	前田昭博	白瓷面取壷	1999年	
32	李起助	方形花瓶Ⅰ	2006年	
33	李起助	方形花瓶Ⅱ	2006年	
34	李起助	白磁祭器形水盤	2006年	
35	李起助	建築的陶磁花瓶	2006年	
36	金相萬	淡々	2005年－2006年	
37	古川章蔵	酒の肴皿	1985年－	
38	古川章蔵	酒の肴皿	1985年－	
39	古川章蔵	酒の肴皿	1985年－	
40	古川章蔵	酒の肴皿	1985年－	
41	古川章蔵	酒の肴皿	1985年－	
42	古川章蔵	酒の肴皿	1985年－	
43	古川章蔵	酒の肴皿	1985年－	
44	古川章蔵	酒の肴皿	1985年－	
45	古川章蔵	酒の肴皿	1985年－	
46	古川章蔵	花器	1996年	
47	古川章蔵	花器	1996年	
48	古川章蔵	切金タタラ鉢	2004年	
49	古川章蔵	酒注	2005年	
50	古川章蔵	足付盃	2005年	
51	古川章蔵	足付盃	2005年	
52	古川章蔵	金彩数字波型小皿	2006年	
53	古川章蔵	線文マナイタ皿	2004年	
54	古川章蔵	酒つぎ	2004年	
55	古川章蔵	ヌード皿	2006年	
56	古川章蔵	ヌード皿	2006年	
57	古川章蔵	ヌード皿	2006年	
58	古川章蔵	ついたての器	2006年	
59	古川章蔵	ついたての器	2006年	
60	古川章蔵	蛇口のついた角皿	2000年	
61	古川章蔵	取手のついた角皿	2000年	

62	古川章蔵	金箔染付タタラ鉢	2004年	
63	古川章蔵	穴アキ角鉢	2003年	
64	張震	作品Ⅰ	2006年	
65	張震	作品Ⅲ	2006年	
66	李侖信	対話	2006年	
67	陳永釗	女と家の猫	2006年	
68	陳永釗	龍と遊ぶエビ	2006年	
69	陳永釗	春の花（大皿）	2006年	
70	陳永釗	フリースタイル（大皿）	2006年	
71	陳永釗	抽象文の器	2006年	
72	陳永釗	春の花（竹の取っ手の匙）	2006年	
73	陳永釗	蝦（竹の取っ手の匙）	2006年	
74	陳永釗	抽象（竹の取っ手の杯）	2006年	
75	陳永釗	松梅蘭（竹の取っ手のカップ）	2006年	
76	陳永釗	対峙（花器）	2006年	
77	陳永釗	春の花（花器）	2006年	
78	陳永釗	抽象（花器）	2006年	
79	陳永釗	休息（花器）	2006年	
80	陳永釗	蝦（茶碗）	2006年	
81	陳永釗	蟹（茶碗）	2006年	
82	陳永釗	抽象A(湯呑）	2006年	
83	陳永釗	抽象B(湯呑）	2006年	
84	陳永釗	竹の取っ手の草模様のカップ	2006年	
	陳永釗	抽象碗	2006年	
	陳永釗	抽象急須（竹の取っ手の急須）	2006年	
85	卓銘順	茶器シリーズ「ハハコグサ」	2004年	
86	卓銘順	山菊	2000年	
87	卓銘順	生の多様性「台湾コウホネ」	2003年	
88	孫珉永	空間を盛る器	2003年	
89	孫珉永	T－4 節のある陶磁器	2005年	
90	孫珉永	取っ手が竹のカップ	2007年	
91	呉東杰	漂い、濯ぐ(C3)	2004年	
92	呉東杰	隅(C7)	2003年	
93	呉東杰	隅(C9)	2003年	
94	呉東杰	呼吸する光２	2002年	
95	呉東杰	呼吸する光３	2002年	
96	黒河兼吉	untitled lamp	2002年	
97	黒河兼吉	wall lamp	2003年	
98	黒河兼吉	kumo sora	2003年	
99	岡崎達也	shift	2002年	
100	岡崎達也	foam	2002年	
101	岡崎達也	swing	2004年	
102	岡崎達也	pomme	2004年	
103	岡崎達也	braille	2004年	
104	岡崎達也	shake	2005年	
105	岡崎達也	relax	2001年	
106	岡崎達也	flora	2000年	
107	楊元太	大地の霊動00－13	2000年	
108	小川待子	K－2000	2000年	岐阜県現代陶芸美術館（一部）
109	申相浩	アフリカン・ドリーム	2004年	
110	申相浩	アフリカン・ドリーム	2004年	
111	滝口和男	無題	2005年	
112	滝口和男	無題	2006年	
113	滝口和男	無題	2006年	
114	滝口和男	無題	2006年	
115	滝口和男	無題	2006年	
116	滝口和男	無題	2006年	
117	滝口和男	それは輪廻のごとく	2006年	
118	滝口和男	かくて家族は増え続け	2006年	
119	滝口和男	じゃんけんぽんの真中で	2006年	
120	滝口和男	暖まりて　いねむりを	2006年	
121	滝口和男	初めてのおつかい！？	2006年	
122	滝口和男	暖かな日差しに花と	2006年	
123	滝口和男	共に遊ぶと	2006年	
124	滝口和男	鈍い輝きから現れて	2006年	
125	滝口和男	夢に遊ぶ象さんは	2006年	
126	滝口和男	熱き思いを擂り込める	2006年	
127	滝口和男	紙飛行機の行方は	2006年	
128	滝口和男	古都は熱気を帯びて	2006年	
129	滝口和男	街の明かりの中、背後から	2006年	
130	滝口和男	夜を楽しむ	2006年	
131	滝口和男	狭い地球を離れても	2006年	
132	滝口和男	星夜に遊ぶと	2006年	
133	滝口和男	赤い想いを内に秘め	2006年	
134	滝口和男	おとぎ話の始まりは	2006年	
135	滝口和男	口笛吹けば	2006年	
136	滝口和男	熱い想いの伝達方は	2006年	
137	滝口和男	子供の特権すべれる間に	2006年	
138	滝口和男	あこがれの人のために	2006年	
139	滝口和男	巨大なイスに	2006年	
140	滝口和男	子供はみんなシンガーソングライター	2006年	
141	滝口和男	小さな見栄を張り合って	2006年	
142	滝口和男	小さな体に大きな夢が	2006年	
144	李仁鎮	積み重なった形態Ⅱ	2006年	
145	陳正勳	游	1999年	
146	陳正勳	立	1999年	
147	柴田眞理子	青い机上の静物	1996年	岐阜県現代陶芸美術館
148	柴田眞理子	白い机上の静物	1997年	
149	柴田眞理子	壁の静物	2000年	
150	柴田眞理子	壁の静物	2000年	
151	柴田眞理子	花の静物	2005年	

152	柴田眞理子	花の静物	2005年
153	柴田眞理子	花の静物	2005年
154	柴田眞理子	花の静物	2005年
	柴田眞理子	華の机上の静物	2007年
	柴田眞理子	華の静物	2007年
	柴田眞理子	華の静物	2007年
155	陳美華	貯蔵所	2004年
156	陳美華	遺跡シリーズ	1995年
157	陳美華	伝説シリーズ	1996年
158	三原研	炻器花器	2006年
159	三原研	炻器花器	2006年
160	三原研	炻器花器	2004年
161	三原研	炻器花器	2006年
162	三原研	炻器花器	2006年
163	三原研	炻器花器	2006年
164	三原研	炻器獣頭	2006年
165	三原研	炻器獣頭	2006年
166	張清淵	Mislocated Matrix2005－11	2005年
167	張清淵	Mislocated Matrix2005－6	2005年
168	張山	使者	2005年
169	張山	帰途	2005年
170	張山	晩餐	2005年
171	施惠吟	啓蒙	2005年
172	施惠吟	シリーズー椿	2005年
173	邵婷如	馬の蹄が聞こえたら、いったい誰が訪ねてくるというのか。	2004年
174	廖瑞章	緑の生態学	2005年
175	廖瑞章	有機的物体たちー地表シリーズ	2003年
176	金眞卿	Netting Clay952	2006年
177	金眞卿	Netting Clay－dress	1996年
178	金眞卿	Netting Clay1233	2005年
179	崔智輓	K'の物語	2006年
180	崔智輓	J'の物語	2006年
181	崔智輓	T'の物語	2006年
182	李宗儒	陶の神	2004年
183	李宗儒	TVの上の花瓶	2005年
184	李宗儒	痩身の時代	2006年
185	李宗儒	過去との対話	2005年
186	李宗儒	ロボット	2004年
187	李宗儒	ロボット	2004年
188	李宗儒	ロボット	2004年
189	李宗儒	老いる	2004年
190	李宗儒	自分に勝つ	2005年
191	李宗儒	宇宙戦士	2004年
192	青木克世	名声	2003年
193	青木克世	鏡よ鏡	2005年
194	青木克世	予知夢	2006年
195	施宣宇	風の翼	2003年

2007年度　特別展
ギャラリーⅠ　自主企画

前衛芸術の諸相

Various Aspects of Avant-Garde Ceramic Art

会　期：2007年12月23日（日）ー2008年3月28日（金）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料
主　催：岐阜県現代陶芸美術館

■内容

戦後に始まる前衛芸術の動きは、長く「用」や「機能」と密接な関係を持ち、そしてとりわけ日本では土肌や釉薬の表情に味わいを見てきたやきものが、あらためてその意味を問いただされ、ひとつの表現手段となりゆく展開を示すものでした。裏返せば、この動きこそがまさに「やきもの」「陶芸」の本質とは何かを検証しようとするものであったといえるのではないでしょうか。

第1部「京都に生まれた前衛」では、日本の前衛芸術の誕生・発展において大きな動きをみせた京都を舞台に、その展開をリードした作家たちの作品を紹介しました。そして第2部「アメリカとの出会い」は、戦後、日本の作家達が活動の場を海外に広げるなかで、いち早い時期にアメリカへ渡り、自由で力強い表現のエネルギー溢れる空気に触れて、そうした体験を自らの作品表現に昇華させていった作家たちの作品を、アメリカの陶芸作品とあわせて紹介いたしました。本展は当館コレクションにより、前衛陶芸が展開する姿を上記2部

構成によって2つの視点から見つめ、日本の前衛陶芸の展開をきり拓いてきた作家たちが追求した、表現の形を探ろうとしました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】

月刊なごや　［展覧会情報／2007年12月1日］
美術手帖　［展覧会情報／2008年1月］
ギャラリー　273号　［展覧会情報／2008年1月］
ぴあ　502号　［展覧会情報／2008年1月17日］
美術の窓　292号　［展覧会情報／2008年1月20日］
Chat　99号　［展覧会情報／2008年1月25日］
炎芸術　93号　［展覧会紹介／2008年2月1日］
City-1　145号　［展覧会紹介／2008年3月1日］
陶説　660号　［展覧会紹介／2008年3月1日］
たじたじ　319号　［展覧会情報／2008年3月4日］
陶業時報　［展覧会情報／2008年3月15日］
BM　美術の社　［展覧会情報／2008年3月7日］

【新聞】

北日本新聞　［展覧会紹介／2007年12月25日］
岐阜新聞　［展覧会紹介／2007年12月27日］
毎日新聞　［展覧会紹介記事・小林哲夫／2008年1月4日］
中日新聞　［展覧会評・大長智広／2008年1月29日］
朝日新聞　［展覧会評・井上隆生／2008年2月5日］
中日新聞　［展覧会紹介／2008年3月1日］

【その他】

NHK教育「新日曜美術館　アートシーン」
［展覧会情報／2006年12月23日］

■入場者数

2,013人

■出品リスト

第１部　京都に生まれた前衛

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
1	八木一夫	曲	1964年	岐阜県現代陶芸美術館
2	八木一夫	陶筒　鳥雲に入る	1968年	岐阜県現代陶芸美術館
3	八木一夫	陶筒　行進	1968年	岐阜県現代陶芸美術館
4	八木一夫	頁1	1971年	岐阜県現代陶芸美術館
5	鈴木治	天馬横轉	1973年	岐阜県現代陶芸美術館
6	鈴木治	馬形	1978年	岐阜県現代陶芸美術館
7	山田光	白化粧線彫花器	1951年	岐阜県現代陶芸美術館
8	山田光	二つの口の壺	1952年	岐阜県現代陶芸美術館
9	山田光	切った壺	1953年	岐阜県現代陶芸美術館
10	山田光	切った壺	1953年	岐阜県現代陶芸美術館
11	山田光	作品	1953年	岐阜県現代陶芸美術館
12	山田光	作品	1955年	岐阜県現代陶芸美術館
13	山田光	作品	1956年	岐阜県現代陶芸美術館
14	山田光	塔	1960年頃	岐阜県現代陶芸美術館
15	山田光	声	1960年	岐阜県現代陶芸美術館
16	山田光	陶壁	1967年	岐阜県現代陶芸美術館
17	山田光	交叉する陶面	1974年	岐阜県現代陶芸美術館
18	山田光	離反する壺	1976年	岐阜県現代陶芸美術館
19	山田光	背を向ける半円	1981年	岐阜県現代陶芸美術館
20	山田光	作品	1986年	岐阜県現代陶芸美術館
21	山田光	銀泥陶壁	1991年	岐阜県現代陶芸美術館
22	藤平伸	鳥の壷	1977年	岐阜県現代陶芸美術館
23	藤平伸	鳥の絵壷	1987年	岐阜県現代陶芸美術館
24	藤平伸	風景	1987年	岐阜県現代陶芸美術館
25	藤平伸	華厳	1989年	岐阜県現代陶芸美術館
26	藤平伸	祝歌	1992年	岐阜県現代陶芸美術館
27	藤平伸	華厳	1997年頃	岐阜県現代陶芸美術館
28	藤平伸	聖なるもの	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
29	熊倉順吉	泥の歌	1964年	岐阜県現代陶芸美術館
30	熊倉順吉	困却	1965年	岐阜県現代陶芸美術館
31	熊倉順吉	砦	1967年	岐阜県現代陶芸美術館（稲塚コレクション）
32	熊倉順吉	海鼠釉長靴	1967年	岐阜県現代陶芸美術館（稲塚コレクション）
33	熊倉順吉	作品	1971年	岐阜県現代陶芸美術館（稲塚コレクション）
34	熊倉順吉	人物	1977年	岐阜県現代陶芸美術館
35	熊倉順吉	ジャズの城	1977年	岐阜県現代陶芸美術館
36	熊倉順吉	VOCAL	1977年頃	岐阜県現代陶芸美術館
37	熊倉順吉	道化の華－2－	1978年	岐阜県現代陶芸美術館
38	熊倉順吉	作品	1978年	寄託品
39	熊倉順吉	スピーカー	1970年代後半	岐阜県現代陶芸美術館

第２部　アメリカとの出会い

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
40	ピーター・ヴォーコス	歩く女	1956年	岐阜県現代陶芸美術館
41	ピーター・ヴォーコス	ビックV	1981年	岐阜県現代陶芸美術館
42	ジョン・メイソン	直立する彫刻	1962年	岐阜県現代陶芸美術館
43	ルディ・オーティオ	タイムピース	1994年	岐阜県現代陶芸美術館
44	金子潤	UNTITLED,1995	1995年	岐阜県現代陶芸美術館
45	金子潤	無題(96-1-58)	1996年	寄託品
46	森野泰明	WORK68-11「海の光」	1968年	岐阜県現代陶芸美術館
47	森野泰明	WORK83-4	1983年	岐阜県現代陶芸美術館
48	森野泰明	黎銹緑彩波文扁壺	2003年	岐阜県現代陶芸美術館
49	森野泰明	黒銹波文扁壺	2003年	岐阜県現代陶芸美術館
50	柳原睦夫	空の風景	1975－76年	岐阜県現代陶芸美術館
51	柳原睦夫	偏西風	1977年頃	岐阜県現代陶芸美術館
52	柳原睦夫	金銀彩沓花瓶1	1985年	岐阜県現代陶芸美術館

53	柳原睦夫	金銀彩沓花瓶2	1985年	岐阜県現代陶芸美術館
54	柳原睦夫	青・オリベ花喰笑口瓶	1992年	岐阜県現代陶芸美術館
55	柳原睦夫	ギン・オリベ嬉遊文壷	1998年	岐阜県現代陶芸美術館
56	柳原睦夫	縄文式・弥生形壷(1)	2001年	岐阜県現代陶芸美術館
57	柳原睦夫	縄文式・弥生形壷(2)	2001年	岐阜県現代陶芸美術館
58	柳原睦夫	大手付・平成器	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
59	柳原睦夫	平成・アオイドの器(1)	2006年	岐阜県現代陶芸美術館
60	柳原睦夫	平成・アオイドの器(2)	2006年	岐阜県現代陶芸美術館
61	柳原睦夫	平成・黒彩釉器	2006年	岐阜県現代陶芸美術館
62	三島喜美代	Electric poles	1984－85年	寄託品
63	三島喜美代	WORK C-92	1991－92年	個人蔵
64	三島喜美代	WORK-96A	1996年	岐阜県現代陶芸美術館
65	三島喜美代	リーフレット	2007年	岐阜県現代陶芸美術館
66	三島喜美代	サンキスボックス	2007年	岐阜県現代陶芸美術館
67	三島喜美代	バナナボックス	2007年	岐阜県現代陶芸美術館
68	三島喜美代	ニュースペーパー'06	2007年	岐阜県現代陶芸美術館
69	三島喜美代	ニュースペーパー	2007年	岐阜県現代陶芸美術館
70	三島喜美代	楽譜	2007年	岐阜県現代陶芸美術館
71	三島喜美代	Comic-07	1979－2007年	個人蔵

2006年度
ギャラリーⅡ　展示室Ａ

写実をまとう－初期・宮川香山展

MIYAGAWA Kozan:Realism in Early Makuzu Ware

会　期：2006年4月18日（火）－8月13日（日）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料

■内容

京都真葛ヶ原の代々続く陶家に生まれ、明治期に横浜で真葛焼を創業して活躍した初代宮川香山（本名虎之助／1842～1916）の作品を、宮川香山研究家でありコレクターでもある田邊哲人氏のコレクションに、当館の収蔵品を加え紹介しました。

真葛焼は、明治初年から昭和20年横浜大空襲によりその70余年の歴史の幕を閉じるまで、内外の博覧会や美術展で数々の受賞を重ねた名窯であり、香山は陶芸界で二番目の帝室技芸員にも選ばれています。香山の作品は、すでに広く海外においてもMAKUZU WARE（マクズウェア）として高く評価され、優れた作品の数々が今日欧米の美術館やコレクションに収蔵されていますが、近年、日本においても明治期のやきものが再評価されるにともない、その技巧の高さと独特の世界に関心が高まりつつあります。

海外へ輸出された香山の作品の作風は、薩摩焼風のものからアール・ヌーヴォーの雰囲気を湛えた釉下彩によるものへと変化していきますが、本展では初期に手掛けられた、極めて実用性の高い彫刻的な作品を中心に紹介しました。器物から立体的に飛び出すように、そしてときには抉（えぐ）るようにして造形をつくりあげている作品たち。そこはごく細部にまで厳しくものをみつめて表現した、香山の鋭い眼差しと技が溢れています。写実的な彫刻表現をまとい、独特な世界を陶器の上に展開した初期の特徴的な作品を紹介することで香山が追求した世界を検証しました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【新聞】
ふれあい　くらしと県政　5月号　［展覧会情報／2006年5月1日］
炎芸術　86号　［展覧会情報／2006年5月1日］
ふれあい　くらしと県政　6月号　［展覧会情報／2006年6月1日］
たじたじ　298号　［展覧会紹介／2006年6月6日］
美術の窓　273号　［展覧会情報／2006年6月20日］
陶説　641号　［展覧会解説・佐野学芸員／2006年8月1日］
陶業時報　［関連事業情報／2006年8月5日］
時局　8月号　［関連事業情報／8月7日］

【新聞】
毎日新聞（岐阜県版）　［展覧会紹介／2006年6月29日］
岐阜新聞（夕刊）　［展覧会情報／2006年6月30日］
岐阜新聞（夕刊）　［展覧会情報／2006年7月31日］
岐阜新聞（東濃地域版）　［関連事業紹介／2006年8月13日］

【その他】
エフエムたじみ「ふるさとWalker」
［展覧会紹介・岩井学芸員、村山学芸員／2006年4月6、13、20、27日］

■関連事業

▶ **講演会**
「真葛焼－香山の世界を知る」
講　　師：田邊哲人（真葛香山・横浜焼研究家）
日　　時：2006年8月12日（土）午後1時30分～3時
会　　場：岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム
入場者数：38人

■出品リスト

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	浮彫蓮子白鷺翡翠図花瓶	明治前期（19c後半）	岐阜県現代陶芸美術館
2	高浮彫牡丹ニ眠猫覚醒蓋付水指	明治前期（19c後半）	田邊哲人
3	高浮彫南天ニ鶉花瓶一対	明治前期（19c後半）	田邊哲人
4	高浮彫亀花瓶	明治前期（19c後半）	田邊哲人
5	高浮彫風神雷神花瓶一対	明治前期（19c後半）	田邊哲人
6	高浮彫鴫花瓶	明治前期（19c後半）	田邊哲人
7	高浮彫桜ニ群鳩花瓶一対	明治前期（19c後半）	田邊哲人
8	高浮彫葡萄ノ蔓ニ蜂のノ巣花瓶	明治前期（19c後半）	田邊哲人
9	高浮彫四窓遊蛙獅子蓋付壺一対	明治前期（19c後半）	田邊哲人
10	高浮彫葡萄ニ団扇花瓶	明治前期（19c後半）	田邊哲人
11	高浮彫鳩ニ桜花飾皿	明治前期（19c後半）	田邊哲人
12	鬼ニ白龍鷹香炉	明治前期（19c後半）	田邊哲人
13	高浮彫枯蓮ニ蟹花瓶	明治前期（19c後半）	田邊哲人
14	高浮彫満月ニ鶉花瓶	明治前期（19c後半）	田邊哲人
15	高浮彫団扇ニ花鳥花瓶	明治前期（19c後半）	田邊哲人
16	高浮彫蓮ニ鼠花瓶	明治前期（19c後半）	田邊哲人
17	高浮彫金彩孔雀大花瓶	明治前期（19c後半）	田邊哲人
18	渡蟹水盤	1916年	田邊哲人

参考資料　色見本
印
名刺

田邊哲人

2006年度
ギャラリーⅡ　展示室Ｂ

発光する陶磁器
LUMINOUS CERAMICS

会期：2006年5月2日（火）－8月13日（日）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料

■内容

この展覧会は､様々な工夫を通して光を取り込んだ陶芸作品を特集し、陶磁器の豊かな表情を楽しんでいただくものとして企画しました。

陶磁器に反射した光は、ガラスや金属とは異なる暖かくやさしい明かりとなって、私たちの眼と心を休めてくれます。土の厚みの変化によって、光を作品の一部となし、あるいは逆に光の色を変えることによって土に思いがけない色彩がもたらされることがわかります。

一方、磁器は、ごく薄作りにすることで透過性を持ち、まるで光を宿したかのような澄んだ輝きを見せてくれます。また金銀を焼き付けることで、軽やかなきらめきを持つ器が生み出されます。

薄暗くした展示室で、陶磁器を通した光が幻想的に輝く展覧会となりました。

■出品リスト

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
1	黒河兼吉	ユニット照明	1997年	岐阜県現代陶芸美術館
2	九鬼則康	空	1992年	岐阜県現代陶芸美術館
3	栄木正敏	表面張力シリーズ	1995年	岐阜県現代陶芸美術館
4	崔宰熏	ザ・ライト　土と光のハーモニー	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
5	川村秀樹	クラック・タイル	1995年	岐阜県現代陶芸美術館
6	小塩薫	白いかばん	1997年	岐阜県現代陶芸美術館
7	小塩薫	痕跡からの結晶－泡の靴	1994年	岐阜県現代陶芸美術館
8	小塩薫	痕跡からの結晶－today's diary	1999年	岐阜県現代陶芸美術館
9	ドロシー・フェイブルマン	白い白い練り込み酒器	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
10	川口淳	色絵金彩楽園文：夢の日記の器たち	1999年	岐阜県現代陶芸美術館
11	前川俊一	銀彩シリーズ「リズム」	2000年	岐阜県現代陶芸美術館

2006年度
ギャラリーⅡ　展示室Ｄ

リアル－陶芸に見るそれぞれの現実
Realistic-Tradition Ceramic Artists

会期：2006年4月25日（火）－8月13日（日）
観覧料：一般320円、大学生200円、高校生以下無料

■内容

この展覧会では、写実的な陶芸作品を特集し、陶磁表現の可能性と、陶磁を用いる意味を問い直しました。

そのものそっくりに作り、人々を驚嘆させることは、美術の一つの醍醐味と言えます。絵画・彫刻の歴史を振り返るなら、こうした写実的な作品制作は、作家が自らの技量を示す格好の手段となってきました。

現代陶芸における写実表現の登場は、オブジェという新たなジャンルによる陶芸と美術の接触を基盤として、1960 年代後半、ポップアート最盛期のアメリカで現れたスーパーリアリズム(またはハイパーリアリズム)と呼ばれる動向に端を発しているとも思われます。

土という素材の可塑性の高さと、焼成するとそのまま固まるという特性を存分に生かした、陶芸ならではの写実表現を紹介しました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

日経新聞（夕刊）　［展覧会紹介／2006年5月24日］

毎日新聞（岐阜版）

［展覧会紹介記事・小林哲夫／2006年4月27日］

■出品リスト

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
1	八木一夫	頁1	1971年	岐阜県現代陶芸美術館
2	荒木高子	頽廃の聖書	1985年	岐阜県現代陶芸美術館
3	三島喜美代	Electric Poles	1984－85年	岐阜県現代陶芸美術館
4	三島喜美代	Work-96A	1996年	岐阜県現代陶芸美術館
5	結城美栄子	Tomorrow	1988年	岐阜県現代陶芸美術館
6	小松誠	クリンクル・シリーズ	1997－98年	岐阜県現代陶芸美術館

2006年度

ギャラリーⅡ　展示室Ｃ

思春期のカタチ2006－ワークショップ作品展－

Figures at the youthful age 2006(Works from the workshop)

会　期：2006年10月31日（火）－11月26日（日）

■内容

中学生・高校生が、夏休みのワークショップで制作した作品を展示しました。ワークショップでは収蔵作家を講師として招き、作家の作品を鑑賞し、解説を聞き、作家とともに制作に取り組みました。

1回目の齋藤敏寿教室では、高さ3m60cm、高さ4m20cmもある作品を参加者全員で組み立て、齋藤敏寿作品の力強さを実感しました。制作では、大きな土の塊から切り出した部品を視点を変えていろいろな方向から見ながら、組み合わせたり着色したりして、自分のカタチを作り出しました。

2回目の松田百合子教室では、赤や緑、金色で模様が描かれたピーマンや瓢箪といった作品の鑑賞を通して、身近な野菜や果物からいろいろな作品が作り出せる事に気づきました。石膏の型から土色の野菜を取り出したとき、カタチのおもしろさを再発見し、さらに着色によって新しいカタチを生み出しました

■作品リスト

齋藤敏寿教室

作品番号	作品名	学校名	学年
1	両生類っぽいやつ	瑞浪市立瑞陵中学校	1年
2	不思議	多治見市立陶都中学校	1年
3	森	多治見市立陶都中学校	1年
4	必然	多治見市立陶都中学校	1年
5	階段ガエル	多治見市立陶都中学校	1年
6	心の花／今、飛びたつ	多治見市立南ヶ丘中学校	2年
7	大地	多治見市立南ヶ丘中学校	2年
8	夢の世界	多治見工業高等学校	1年
9	それでもそこに存在物	多治見工業高等学校	1年
10	増殖	多治見工業高等学校	3年
11	無題	多治見工業高等学校	専攻科

松田百合子教室

作品番号	作品番号	学校名	学年
1	花／海／入れ物	多治見市立小泉中学校	1年
2	ウォーター・ピーマン	多治見市立南ヶ丘中学校	2年
3	パンプキン・モンスター	多治見市立南ヶ丘中学校	2年
4	生命の木	多治見市立南ヶ丘中学校	2年
5	ブロッコリー	中津川市立第二中学校	2年
6	フルーツカップ	多治見工業高等学校	専攻科
7	ナス／小カボチャ	多治見工業高等学校	専攻科
8	アボガド小物入／ズッキーニ花入	多治見工業高等学校	専攻科

2006年度
ギャラリーⅡ　展示室Ａ

鈴木藏
SUZUKI Osamu

会　期：2006年9月9日（土）ー2007年4月22日（日）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料

■内容

郷土の作家シリーズの第一弾として開催されたのが鈴木藏の個展です。鈴木藏（1934～　／岐阜県土岐市駄知町生まれ ）は、1994年に重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）として認定されています。

鈴木は地元岐阜県立多治見工業高等学校を卒業後、当時丸幸陶苑の釉薬の技師であった、父・通雄のもとで技術を学びます。慣習などを重んじるやきもの制作において、父の研究方法は合理的にデーターを蓄積していくといったもので、このような科学技術的な取り組みは、鈴木の制作姿勢に少なからず影響したと思われます。父のもとで学ぶようになってから 6 年ほどが経ち、1959 年に朝日新聞社主催第八回現代日本陶芸展に五枚一組の「志野丸皿」を出品、この作品が佳作賞を受賞したことがきっかけとなり、以後、公募展に出品するようになりました。1964年築窯。個人作家として制作していくことを決意します。

鈴木は、薪窯信仰が根強く残るこの町で、一貫してガス窯で焼く「現代の志野」を世に問うてきました。その作風は量感あるオブジェ風の花器や象嵌、マスキングなどの技法による水差しや長皿など、緋色と志野釉の鮮やかなコントラストを活かした現代的な作品です。

本展では、個人の所蔵家からお借りした初期作品からオブジェ風の花器など、そして当館所蔵の志野茶碗を加えて紹介しました。“伝統の上に、現代の作家がつくるべきもの”を追求する鈴木の一貫した姿勢を見てとることはできたことと思います。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【新聞】
中日新聞　［展覧会紹介／2006年8月31日］
中日新聞　［展覧会紹介記事・妹尾浩和／2006年9月10日］
岐阜新聞　［展覧会紹介／2006年9月14日］
朝日新聞　［展覧会評・井上隆生／2006年10月3日］
朝日新聞　［展覧会評／2006年10月4日］
読売新聞　［展覧会紹介／2006年10月11日］
岐阜新聞　［関連事業紹介記事･各務勝／2006年11月27日］
中日新聞　［関連事業紹介・清水祐樹／2006年11月27日］

■関連事業

▶ 講演会「つくる立場からみた伝統について」
講　　師：鈴木藏
日　　時：2006年11月26日（日）午後1時30分～3時
会　　場：岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム
入場者数：100人

■印刷物

展示会リーフレット『鈴木藏』 4頁
編集・執筆：高満律子
印　　刷：セキ株式会社
発　　行：岐阜県現代陶芸美術館

■出品リスト

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	志埜茶碗	1985年	個人
2	志埜茶盌	1986年	メナード美術館
3	志埜茶碗	1994年	個人
4	志野茶盌	1999年	東京国立近代美術館
5	志野茶碗	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
6	志埜水指	1988年	個人
7	志埜花入	1995年	個人
8	志野花入	1970年	個人
9	志野花入	1998年	個人
10	織部花器	1972年	個人
11	織部大皿	1972年	個人
12	志野花器	1961年	東京国立近代美術館
13	志野花器	1979年	個人
14	志埜花器	1995年	個人
15	志埜花器	1998年	メナード美術館

16	志埜花入	1995年	個人
17	志野大皿	1972年	個人
18	志野大皿	1999年	個人
19	志野大皿	1980年頃	個人
20	志野土瓶・志野湯呑	1985年	東京国立近代美術館
21	鉄鉢	1967年	京都国立近代美術館

2006年度
ギャラリーⅡ　展示室Ｂ

岐阜の芸術－技と表現－

Art form Gifu －Technique and Expression－

会　期：2006年9月9日（土）－2007年4月8日（日）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料

■内容

岐阜県では、日本を代表する多くの画家や陶芸家が作品を残しています。世界的に知られた陶芸作品はもちろんのこと、絵画や彫刻などの分野でも名品と呼ばれる作品が多数存在しています。これらの作品を県民の方々に親しんでいただこうと、岐阜県美術館が所蔵する絵画作品と岐阜県現代陶芸美術館が所蔵する陶芸作品を同時に展示する「岐阜の芸術」展を開催する運びとなりました。

日本の近代以降の美術の世界では、岐阜県にゆかりのある幾多の作家が活躍しています。岐阜県美術館では、この豊かな地域文化に誇りを持ち、郷土とかかわりの深い作家の作品を収蔵、展示し、県民の郷土文化に対する新たな認識をうながしてきました。また、幸兵衛窯など長い歴史を誇る窯業地として全国に知られている岐阜県東濃地域には、陶芸文化の発展と振興を目的とし、2002年岐阜県現代陶芸美術館が開館しました。

今回の展覧会では、各館の特色を活かし、県美術館所蔵の絵画と現代陶芸美術館所蔵の陶芸作品を同時に陳列し、岐阜が世界に誇る画家と陶芸家の作品を通して、岐阜の文化力を再認識しました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】
OREILLE 97号　［展覧会紹介／2006年10月25日］
炎芸術　88号　［展覧会情報／2006年11月1日］
全日本美術　［展覧会情報／2006年12月10日］
美連協ニュース　93号　［展覧会情報／2007年2月］
ギャラリー　263号　［展覧会情報／2007年3月1日］
【新聞】
中外日報　26925号　［展覧会紹介／2006年9月14日］
岐阜新聞（夕刊）　［展覧会情報／2006年9月30日］

■出品リスト

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
1	山田光	白化粧線彫花器	1951年	岐阜県現代陶芸美術館
2	加藤卓男	藍彩四方花器	1993年	岐阜県現代陶芸美術館
3	斎木俊秀	三つ足（フラワーベース）	1995年	岐阜県現代陶芸美術館
4	加藤土師萌	黄地紅彩蜂葡萄文角皿	1954年	岐阜県現代陶芸美術館
5	林恭助	曜変天目茶碗	2003年	岐阜県現代陶芸美術館
6	五代加藤幸兵衛	萌黄金彩水指	1960年	岐阜県現代陶芸美術館
7	伊藤秀人	酒器	1998年	岐阜県現代陶芸美術館
8	加藤幸兵衛	曙光	1975年	岐阜県現代陶芸美術館
9	中島晴美	苦闘する形態	1995年	岐阜県現代陶芸美術館
10	加藤孝造	瀬戸黒茶碗	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
11	加藤委	無題	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
12	加藤栄三	鉄線花	1961年	岐阜県美術館
13	川崎小虎	海芋	1942年	岐阜県美術館
14	長縄士郎	花花		岐阜県美術館
15	加賀孝一郎	静物扇面図	1970年	岐阜県美術館
16	加賀孝一郎	扇のある静物	1987年	岐阜県美術館
17	伊藤敏博	静物	1921年	岐阜県美術館
18	鬼頭鍋三郎	ノートルダム	1954年頃	岐阜県美術館
19	加藤栄三	烟雨の中	1970年	岐阜県美術館
20	加藤東一	高山夜祭り	1982年	岐阜県美術館
21	矢橋六郎	薄墨桜	1981年	岐阜県美術館
22	篠田桃紅	人よⅡ	1988年	岐阜県美術館
23	村井正誠	月の出	1995年	岐阜県美術館
24	村井正誠	版画シリーズ・夜の人	1964年	岐阜県美術館
25	村井正誠	版画シリーズ・棒を持つ人	1964年	岐阜県美術館
26	村井正誠	版画シリーズ・僧	1973年	岐阜県美術館

2006年度
ギャラリーⅡ　展示室Ｄ

取っ手に注目

Focus on Handles

会　期：2006年9月9日（土）－2007年4月15日（日）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料

■内容

器を持ち上げる、あるいは傾けるためにある形、取っ手。普段は脇役としてあまり目に留めることのない取っ手ですが、実は器の用途や形を決定する大事な要素でもあります。それに、人間の行動、生活の習慣、手の感覚、そして見た目に対する価値観といった複合的な要素の絡み合う、興味深い歴史を背負った形でもあるのです。

この展覧会は、上田順平の作品との出会いから始まりました。スタンダードな形の取っ手が、まるで持つことを拒否するように群がって、そのまま装飾と化しているカスタムオーナメントポット。この作品を中心に、様々な取っ手の形を比較しながら、それに添える手の形も想像する展覧会となりました。

■出品リスト

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
1	上田順平	カスタムオーナメントポット	2006年	個人
2	田尻誠	柿釉共手土瓶	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
3	田尻誠	柿釉平底ポット	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
4	田尻誠	柿釉特大急須	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
5	オットー・リンデッヒ	コーヒーポット	1924年	岐阜県現代陶芸美術館
6	ローゼンブルフ	ティーポット	1900年	岐阜県現代陶芸美術館
7	ブランチェ	花器	1898年	岐阜県現代陶芸美術館
8	ロイヤルウースター	ポット	1873年	岐阜県現代陶芸美術館
9	ビング・オー・グランデール	鷺のカップ＆ソーサー	1915年頃	岐阜県現代陶芸美術館
10	ユッタ・ジカ	ティーポット	1901－2002年頃	岐阜県現代陶芸美術館
11	ユッタ・ジカ	ティーカップ	1901－2002年頃	岐阜県現代陶芸美術館
12	カジミール・セヴェリノヴィチ＝マレーヴィチ	ティーサーヴィス、ポット	1962年	岐阜県現代陶芸美術館
13	ローゼンタール	ＴＡＣ	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
14	森正洋	Ｂ型マグカップ	1974年	岐阜県現代陶芸美術館
15	森正洋	Ｆ型コーヒーカップ	1974年	岐阜県現代陶芸美術館
16	森正洋	Ｐ型コーヒーセット　実験１	1972年－80年	岐阜県現代陶芸美術館
17	森正洋	Ｈ型調味料入	1987年	岐阜県現代陶芸美術館
18	森正洋	丸型冷酒器	1993年	岐阜県現代陶芸美術館
19	森正洋	シェル型茶器土瓶	1983年	岐阜県現代陶芸美術館
20	中山保夫	デザイン画		株式会社ナカヤマ
21	中山保夫	レ・フロール　コーヒーセット		株式会社ナカヤマ
22	―	取っ手型		滝呂陶磁器工業協同組合

2007年度
ギャラリーⅡ　展示室Ａ

模様について

About Patterns

会　期：2007年4月28日（土）－7月29日（日）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料

■内容

本展では、特別展「生誕120年　富本憲吉」展開催を受けて、富本の模様へのこだわりにある背景を探りました。

明治時代の幕開けと共に、輸出陶磁器の生産は一気に盛り上がり、この動きを明治政府は率先して推進しました。技巧を凝らして器を彩る華やかな図案が施されましたが、時に中国や日本の既存の模様を利用し、あるいはアレンジしたものであったことが、近年の研究で明らかになってきました。このようにして模様を作る方法には限界があったのか、やがて工芸品の輸出不振がささやかれるようになります。

これを受けて、教育機関が設置され、アール・ヌーヴォー様式を取り入れた図案や、西洋技術の研究に基づく新しい装飾技術が模索されました。その流れは現在にまでつながっていると言えるでしょう。

一方、富本憲吉は、身近な自然や風景の写生を基盤として、何よりも「模様を造る」ことを重視します。富本の言う「模様」は、これまで見てきた近代の「図案」とどう異なるのか。近代の陶磁作品や図案集などを比較しながら、模様に対する意識の変化を追いました。

■出品リスト

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
1	－	下絵画帖	明治前期（19世紀後半）	
2	精磁会社	染付上絵桐鳳凰文透彫大香炉	明治前期（19世紀後半）	岐阜県現代陶芸美術館
3	香蘭社	色絵黒外濃花鳥文沈香壺	明治前期（19世紀後半）	岐阜県現代陶芸美術館
4	宮川香山	浮彫蓮子白鷺翡翠図花瓶	明治前期（19世紀後半）	岐阜県現代陶芸美術館
5	瓢池園	上絵金彩山水図皿	1881年	岐阜県現代陶芸美術館
6	アーサー・バーロー	塩釉唐草文水差	1872年	岐阜県現代陶芸美術館
7	マイセン	クローバー模様2人用テーブルセット	1901－1909年頃	岐阜県現代陶芸美術館
8	フランク・バトラー	塩釉青い花文飾り壺	1902－11年頃	岐阜県現代陶芸美術館
9	－	『瀬戸職工競技会図案帖』	1904年頃	瀬戸歴史民俗資料館
10	－	『瀬戸図按集』	1918年	瀬戸歴史民俗資料館
11	加藤友太郎	釉下彩菖蒲鯉図花瓶	明治時代後期	岐阜県現代陶芸美術館
12	深川製磁	釉下彩上絵陽刻紫陽花図大花瓶	明治時代後期	岐阜県現代陶芸美術館
13	板谷波山	彩磁延年文花瓶	1921年	岐阜県現代陶芸美術館
14	富本憲吉	模様集	1927年	岐阜県現代陶芸美術館
15	富本憲吉	作陶印譜	1950年	岐阜県現代陶芸美術館
16	富本憲吉	創作陶画資料3　富本憲吉編	1978年	岐阜県現代陶芸美術館
17	富本憲吉	色絵金彩菊花文八角小筥	1944年	
18	富本憲吉	色絵梅花文磁盃	1944年	
19	富本憲吉	色絵梅花文湯呑	1944年	
20	工芸技術講習所（生徒）	色絵磁器	1944－45年	
21	工芸技術講習所（生徒）	草花染付壺	1944－45年	
22	工芸技術講習所（生徒）	図案資料	1944－45年	
23	－	工芸技術講習所作品展示会ポスター	1944年	

2007年度

ギャラリーⅡ　展示室Ｂ

受贈記念―人間国宝　清水卯一展

Donation Commemorative Exhibition:Shimizu Uichi,Living National Treasure

会　期：2007年4月28日（火）―7月29日（日）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料

■内容

清水卯一（1926～2004）は「鉄釉陶器」の優れた技術により、1985年に重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されています。

京都五条坂にある陶磁器の卸問屋に生まれた清水は、作陶の道に進むことを決めると陶芸家石黒宗麿に入門しました。戦時体制が強まる状況下、石黒のもとに通った期間はわずか数ヶ月でしたが、その間に学んだ陶芸家としての姿勢は以後の作陶に大きな影響を与えました。1941年には京都国立陶磁器試験場の伝習生となり、釉薬や図案の指導を受けて基礎的な釉薬の研究に取り組み、その後京都市立工業試験場窯業部に助手として就職します。終戦を迎えると清水は試験場を辞職し、それまでの京都のやきものにない、新しい作品を作ることを目指して自宅工房での作陶を始めました。1955年頃には柿釉、油滴において個性的な作風を確立し、当時、鉄釉の焼成は還元炎焼成が一般的であったなか、酸化炎での焼成に成功します。

1970年、大気汚染防止法によって京都の市街地で登り窯が使えなくなると、それを機に清水は滋賀県志賀町へ移り、若い頃からの念願であった登り窯・蓬莱窯を築いて、以降堰をきったように新しい釉薬に挑戦していきます。若い頃に石黒宗麿から学んだ、自分で材料を作ることへの憧れは彼の作陶におけるこだわりとなり、比良山系の山中を探して素地と釉薬のための陶土や磁土、石を求め、その発色を追求しました。そして氷裂貫入の青磁、青白磁に近い釉薬蓬莱磁、黄蓬莱など、釉薬や素地土の内部にあるものを導き出すように美しい色釉薬を作り出します。

本展では、卯一氏の長男で陶芸家の保孝氏よりご寄贈いただいた当館収蔵品10点を展示しました。いずれも蓬莱窯に移ってからの作であり、意欲的な研究心で土と釉薬の内部にあるものをいかに生かすかを追求しつづけた、清水卯一の陶芸の魅力を伝えています。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】

炎芸術　90号　［展覧会情報／2007年5月1日］
美術の窓　284号　［展覧会情報／2007年5月20日］
ギャラリー　266号　［展覧会情報／2007年6月1日］
ふれあい　くらしと県政ぎふ　574号
［展覧会情報／2007年6月1日］
美術の窓　285号　［展覧会情報／2007年6月20日］
ギャラリー　267号　［展覧会情報／2007年7月1日］
美術の窓　286号　［展覧会情報／2007年7月20日］
美術の窓　287号　［展覧会情報／2007年8月20日］

【新聞】

岐阜新聞（地域総合版）　［展覧会情報／2007年6月29日］

■出品リスト

作品番号	作品番号	制作年	所蔵
1	黄蓬莱鉄堆文壷	1981年	岐阜県現代陶芸美術館
2	蓬莱磁堆線壷	1982年－83年	岐阜県現代陶芸美術館
3	青磁鉄彩壷	1985年	岐阜県現代陶芸美術館
4	柿釉耳付壷	1987年	岐阜県現代陶芸美術館
5	蓬莱白流扁壷	1989年	岐阜県現代陶芸美術館
6	蓬莱赤土彩扁壷	1993－95年	岐阜県現代陶芸美術館
7	蓬莱掛分壷「春夏秋冬」	1993－96年	岐阜県現代陶芸美術館
8	蓬莱鉄耀花水紅雪壷	1997年	岐阜県現代陶芸美術館
9	蓬莱波扁壷	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
10	蓬莱風扁壷	2002年	岐阜県現代陶芸美術館

2007年度
ギャラリーⅡ　展示室Ｄ

藤平伸

FUJIHIRA Shin

会　期：2007年4月28日（土）ー7月29日（日）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料

■内容

現代陶芸に自由で洒脱な独自の境地を拓いた藤平伸（1922～　）は製陶業を営む家庭に生まれ育ちました。京都高等工芸高校窯業科へ進みますが病気で途中退学、療養中は絵を描いて過ごします。30 歳で本格的に陶芸制作を始め、京都陶芸家クラブに入会し清水六兵衛に師事。初期には絵画性の強いレリーフ状の作品を手がけました。その後器物の表面を彫ったり刻印することで迫力のある硬質の線を手に入れ、塗ったり描いたりする通常の上絵とは違った新しい加飾の表現を獲得します。

「鳥の壺」と名づけられた初期作品、宙に浮くように足のつけられた軽やかな形態のオブジェ、表面に小さな突起物が付けられた作品など、独自のエスプリと幻想的な詩情をたたえた藤平の世界をご覧いただきました。

■出品リスト

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	華厳	1989年	岐阜県現代陶芸美術館
2	鳥の壺	1977年	岐阜県現代陶芸美術館
3	祝歌	1992年	岐阜県現代陶芸美術館
4	鳥の絵壺	1987年	岐阜県現代陶芸美術館
5	灰釉壺	1989年	岐阜県現代陶芸美術館
6	華厳	1997年	岐阜県現代陶芸美術館
7	呉須花文壺	1995年頃	岐阜県現代陶芸美術館
8	辰砂飾筥	1997年	岐阜県現代陶芸美術館
9	聖なるもの	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
10	風景	1987年	岐阜県現代陶芸美術館

2007年度
ギャラリーⅡ　展示室Ａ･Ｃ･Ｄ

第7回国際陶磁器展美濃グランプリ受賞者展〔井戸真伸〕〔吉川周而〕

Masanobu IDO／Shuji YOSHIKAWA

会　期：2007年9月1日（土）ー12月2日（日）
観覧料：無料
主　催：国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会
協　力：岐阜県現代陶芸美術館

■内容

国際陶磁器展美濃は、1986年より世界有数の国際的な公募展として3年に一度開催されています。2005年に開かれた第7回におけ

る陶磁器デザイン、陶芸両部門グランプリ受賞者への副賞として本展覧会が企画されました。各々新作を交え、充実した個展となりました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】

陶説　656号　　［展覧会情報・作品写真解説／2007年11月1日］

【新聞】

東濃新報　2286号　　［展覧会紹介／2007年9月21日］

■関連企画

ギャラリートーク

講　　師：井戸真伸・吉川周而

日　　時：2007年9月1日　午前10時～

会　　場：岐阜県現代陶芸美術館ギャラリーⅡ展示室内

入場者数：130人

■印刷物

展覧会リーフレット『井戸真伸』、『吉川周而』 2部、各4頁

執　　筆：岩井美恵子、村山閑

デザイン：井戸真伸

印　　刷：西濃印刷株式会社

発　　行：国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

■出品リスト

井戸真伸

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	pot A	1992年	
2	floor lamp	1992年	
3	Circle Circle	1993年	
4	one	1995年	
5	sima sima	1995年	
6	MATERIAL CUBE	1995年	
7	WAVE	1996年	
8	la la	1998年	
9	TOTT	1998年	
10	oshquom	1998年	
11	tri tri	1998年	
12	Cc	1999年	
13	luna	2002年	
14	hexa	2002年	
15	smart	2003年	
16	vague	2004年	岐阜県現代陶芸美術館
17	coo	2004年	
18	hanahana	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
19	sole	2005年	
20	CATANA	2005年	
21	CUSAVI	2005年	
22	rencon	2005年	
23	beretto	2007年	
24	KYOTO	2007年	

吉川周而

作品番号	作品名	制作年	所蔵
1	のめずりこむ	2003年	
2	のめずりこむ	2004年	
3	のめずりこむ	2004年	
4	のめずりこむ	2004年	
5	のめずりこむ	2004年	
6	のめずりこむ	2004年	
7	のめずりこむ	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
8	のめずりこむ	2005年	
9	のめずりこむ－SISYPHE－	2005年	
10	のめずりこむ	2005年	
11	のめずりこむ－SPHINX－	2005年	
12	のめずりこむ－SPHINXⅡ－	2005年	
13	のめずりこむ－SPHINXⅢ－	2005年	
14	のめずりこむ－SPHINXⅣ－	2005年	
15	のめずりこむ－SPHINXⅤ－	2006年	
16	サークルゲームⅠ	2006年	
17	サークルゲームⅡ	2006年	
18	のめずりこむ	2006年	
19	もりあがるⅠ	2007年	
20	もりあがるⅡ	2007年	
21	もりあがるⅢ	2007年	
22	もりあがるⅣ	2007年	

2007年度
ギャラリーⅡ　展示室Ｂ

思春期のカタチ 2007－ワークショップ作品展－

Figures at the youthful age 2007(Works from the workshop)

会　期：2007年10月30日（火）－12月2日（日）

■内容

夏休みのワークショップにおいて、中学生・高校生が制作した作品を展示しました。このワークショップは、収蔵作家を講師に招き、作家とともに鑑賞・作陶するものです。

講師は、多治見市在住の陶芸家・鴨頭みどりさんで、生徒たちは、鴨頭みどりさんの作品を鑑賞する中で、動物の表情や皮膚の質感のおもしろさに興味をもちました。土に模様をつけたり、土を極限まで引き伸ばしたりする制作の方法について、実際に解説を聞いた後、それぞれが自分の思いに従って作陶していきました。

感じ方や表現の違いを自覚し始める思春期の子どもたちが、このワークショップで制作したそれぞれのカタチを「思春期のカタチ」として作家の作品とともに展示しました。

■出品リスト

鴨頭みどり教室

作品番号	作品名	学校名	学年
1	かいじゅう仮面	土岐市立泉中学校	1年
2	驚く頭	多治見市立北陵中学校	1年
3	大きなかば	多治見市立南ヶ丘中学校	1年
4	笑顔のピエロ	多治見市立南ヶ丘中学校	2年
5	赤いクジャク	多治見市立南ヶ丘中学校	3年
6	ANIMAL'S	多治見市立南ヶ丘中学校	3年
7	何か用ですか？	多治見市立南ヶ丘中学校	3年
8	地球のすばらしさ	多治見市立南姫中学校	3年
9	カメの冒険	岐阜東中学校	3年
10	キャプテンになりたかったやぎ	多治見工業高等学校	1年
11	カトリオン	多治見工業高等学校	1年
12	堕狂音楽－なりゆき－	多治見工業高等学校	1年
13	バッファロー　－若者・老者－	多治見工業高等学校	2年

2007年度
ギャラリーⅡ　展示室Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ

中欧の現代陶芸－ハンガリーとチェコを中心に－

Modern Ceramics from Central Europe　－A focus on Hungary,the Czech Republic and Greater Central Europe

会　期：2007年12月8日（土）－2008年3月28日（金）
観覧料：一般320円、大学生210円、高校生以下無料

■内容

いわゆる東西冷戦終結という体制転換から20年近くが過ぎようとしています。1989年、ドイツというひとつの国を分断していたベルリンの壁が崩壊し、旧東欧諸国と呼ばれた他の国々でも一斉に社会主義体制が崩壊したのです。冷戦が終わりを迎え、資本主義と民主主義という名の新体制が広くヨーロッパを覆ったのです。現在では体制変換した国の多くがEU加盟も果たしました。これらの国の中で、第二次世界大戦後「強制的に」ロシア（当時のソビエト連邦）の影響下におかれ、1989年以降体制を変換したヨーロッパ中央部に位置する国々、とりわけポーランド、ハンガリー、チェコ、スロバキアは、現在では中欧と呼ばれています。

過去の体制下における中欧の陶芸家は制作する主題に制限が設けられていましたが、一方でその身分は保障されていました。しかし新体制は全てを自由にしてしまったため、身分保証もなくなり、格差社会が生まれてしまいました。かの国の陶芸家はこのような状況のなかで、社会に対する強いメッセージを込めた作品を制作する者や、器を基本とした新たな展開の仕事を見せる物など、活動の幅を広げながら自らの立ち位置を見つけようとしています。2005年、そのような激動の時代を生きる中欧のアーティストの作品を紹介するための展覧会が日本でも開催されましたが、そこに展示されていたのは現代美術の作品で陶芸作品は見られませんでした。実際には、チェコでは早い時期に国際現代陶芸シンポジウムが開催され、ハンガリーではジョイナルやヘレンドといった歴史ある陶磁器工房を

抱えていたにもかかわらず、これらの国の陶芸作品がまとめて日本で紹介されることなかったのです。

本展では、中欧と呼ばれる国の中でも当館が所蔵するハンガリーとチェコの作家による現代陶芸作品、さらに20世紀初頭までそれらの国と一国を成していたオーストラリア及びドイツの現代陶芸作品を展示しました。

■雑誌・新聞関連記事〈抜粋〉

【雑誌】

小原流　挿花　［展覧会紹介／2007年12月1日］

中部版ぴあ　501号　［展覧会紹介／2008年1月3日］

ARTMIND　150号　［展覧会紹介／2008年1月10日］

【新聞】

北日本新聞　［展覧会紹介記事／2007年12月4日］

岐阜新聞　［展覧会紹介／2007年12月9日］

中日新聞　［展覧会紹介記事／2007年12月16日］

岐阜新聞　［関連事業紹介記事／2007年12月16日］

中日新聞　［関連企画情報／2008年3月7日］

■講演会

▶ **講演会**

「ハンガリー・ケチケーメート国際陶芸スタジオ滞在日記」

講　　師：松本ヒデオ（陶芸家、京都精華大学教授）

日　　時：12月8日（土）午後1時30分～3時

会　　場：岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム

入場者数：40名

▶ **座談会**

「マグカップシンポジウム2007に参加して－チェコと日本の陶芸と日常－」

パネリスト：宇賀和子（陶芸家）、正守千絵（陶芸家）、吉川千香子（陶芸家）

コーディネーター：岩井美恵子（岐阜県現代陶芸美術館学芸員）

日　　時：12月15日（土）午後1時30分～3時

会　　場：セラミックパークMINOイベントホール

入場者数：40人

▶ **講演会**

「世紀末ハンガリーにおけるカフェ文化と芸術家たち」

講　　師：早稲田みか（大阪大学世界言語研究センター教授）

日　　時：3月8日（土）午後1時30分～3時

会　　場：セラミックパークMINOイベントホール

入場者数：40人

■印刷物

展覧会リーフレット『中欧の現代陶芸－ハンガリーとチェコを中心に』 4頁

編集・執筆：岩井美恵子

デザイン：小寺克彦

印　　刷：西濃印刷株式会社

発　　光：岐阜県現代陶芸美術館

■出品リスト

ハンガリー／Hungary

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
1	ゲスレル＝ガルツィ・マーリア	庭のドラマ	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
2	ゲスレル＝ガルツィ・マーリア	森の声	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
3	ゲスレル＝ガルツィ・マーリア	陶土のポートレイト「産業風景の詩」	1999年	岐阜県立陶芸の森　創作研修館にて制作
4	ゲスレル＝ガルツィ・マーリア	自画像	1999年	岐阜県立陶芸の森　創作研修館にて制作
5	フェケテ・ラーズロー	エンパイア・ステイト・ベッセル	1992年	岐阜県現代陶芸美術館
6	タカーチ・ゾルターン	夏の静物	2002年	岐阜県現代陶芸美術館
7	ヤーゲル・マルギット	無題	1999年	岐阜県現代陶芸美術館
8	シュランメル・イムレ	長椅子の上の女	2000年	岐阜県立陶芸の森　創作研修館にて制作
9	シュランメル・イムレ	座るミノタウルス	2000年	岐阜県立陶芸の森　陶芸館
10	ケチケメティ・シャンドア	彫刻1	1999年	岐阜県立陶芸の森　創作研修館にて制作
11	ケチケメティ・シャンドア	彫刻2	1999年	岐阜県立陶芸の森　創作研修館にて制作
12	ケチケメティ・シャンドア	動く	1999年	岐阜県立陶芸の森　創作研修館にて制作

チェコ／the Czech Republic

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
13	ヴェーツラフ・セラーク	昇る月	2004年	岐阜県現代陶芸美術館

14	ヴェーツラフ・セラーク	壊れた円	2004年	岐阜県現代陶芸美術館
15	エルズビエタ・グロセオバ	権力	1999年	岐阜県現代陶芸美術館
16	ミラン・コート	セラミック・コンパウンド・ヴェッセル／ボウル	1992年	岐阜県現代陶芸美術館
17	ミラン・コート		1995年	岐阜県現代陶芸美術館
18	ペトラ・フラヴィチコーヴィア	マグノリア	2005年	岐阜県現代陶芸美術館

オーストリア／Austria

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
19	ガブリエール・ハイン	トランスフォーム	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
20	ガブリエール・ハイン	トランスフォーム	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
21	ガブリエール・ハイン	バリエイション　ひとつの形態から生まれた12のバリエイション	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
22	ガブリエール・ハイン	バリエイション　オン　ライン	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
23	ガブリエール・ハイン	お祝いセット	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
24	クルト・シュプーレイ	鉢「落ち葉」	1989年	岐阜県現代陶芸美術館
25	ロベルト・ガリアーノ	ウォーターストーン	1998年	岐阜県現代陶芸美術館
26	リロ・シュランメル	サイクル「動線」No.3	1990年	岐阜県現代陶芸美術館
27	ローズマリー・ベネディクト	楽園のキューピット	1991年	岐阜県立陶芸の森　陶芸館
28	ローズマリー・ベネディクト	グリーンウッドの幽霊たち	1991年	岐阜県立陶芸の森　陶芸館

ドイツ／Germany

作品番号	作者名	作品名	制作年	所蔵
29	カール・シャイト	オープン・ヴェッセル・フォーム	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
30	ウルスラ・シャイト	オープン・ヴェッセル・フォーム	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
31	ヨハネス・ゲブハルト	神殿の緑聖堂	1992年	岐阜県現代陶芸美術館
32	ミヒャエル・クレフ	ウィズアウト・タイトル	1997年	岐阜県現代陶芸美術館
33	ミヒャエル・クレフ	ウィズアウト・タイトル	2000年	岐阜県現代陶芸美術館
34	モニカ・デブス	無題	2004年	岐阜県現代陶芸美術館
35	モニカ・デブス	無題	2004年	岐阜県現代陶芸美術館
36	ヨハンナ・ヒッツラー	対角線	2003年	岐阜県現代陶芸美術館
37	ヨハンナ・ヒッツラー	ボウル・アンド・ベース	2004年	岐阜県現代陶芸美術館
38	ヨハンナ・ヒッツラー	お嬢さん	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
39	ヨハンナ・ヒッツラー	凹面	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
40	ヨハンナ・ヒッツラー	直角	2005年	岐阜県現代陶芸美術館
41	ヨハンナ・ヒッツラー	オブジェクト：4つの環	2004年	岐阜県現代陶芸美術館
42	カルラ・フーネケ	夏の恋	2004年	岐阜県現代陶芸美術館
43	ザビーネ・ヘラー	頭像‘ヒロコ’	2001年	岐阜県立陶芸の森　創作研修館にて制作
44	ザビーネ・ヘラー	頭像‘ナム’	2001年	岐阜県立陶芸の森　創作研修館にて制作
45	ザビーネ・ヘラー	トルソー無題	2001年	岐阜県立陶芸の森　創作研修館にて制作

収蔵作品点数年度別一覧

平成20年3月末現在

	購入	寄贈	年度別収蔵品合計	累計
1998年度	39	0	39	39
1999年度	54	4	58	97
2000年度	105	1	106	203
2001年度	174	11	185	388
2002年度	57	12	69	457
2003年度	17	98	115	572
2004年度	38	13	51	623
2005年度	14	42	56	679
2006年度	30	135	165	844
2007年度	125	29	154	998
合　　計	653	345	998	

収蔵品貸出記録

作品名	作家名	貸出先	展覧会名	会場	会期
青釉銀華「碑文」	加藤卓男	岡山市立オリエント美術館	陶のシルクロード加藤卓男の陶芸展	岡山市立オリエント美術館	2006.4.1～2006.5.7
藍彩四方花器	加藤卓男				
UNTITLED,1995	金子潤	国立国際美術館	金子潤展	国立国際美術館	2006.7.29～2006.9.18
青釉銀華「碑文」	加藤卓男	財団法人セラミックパーク美濃	陶芸作家展2006～美濃と出合う	セラミックパークMINO展示ホール	2006.10.6～2006.10.9
志野水指	荒川豊蔵				
白瓷輪花鉢	塚本快示				
ティーセット	カジミール・セヴェリノヴィチ	国立新美術館	20世紀を超えてーアーティストたちの	国立新美術館	2007.1.21～2007.3.19
	＝マレーヴィチ		三つの冒険物		
「労働者クラブ」の読書テーブル&チェア	アレクサンドル・				
（再制作／吉島忠男制作指導）	ロドチェンコ				
境界・系Ⅱ	秋山陽	岐阜県美術館	第4回円空大賞展	岐阜県立美術館	2007.3.2～2007.5.25
色絵金銀彩四弁花模様飾壺	富本憲吉	朝日新聞社事業本部大阪企画事業部	生誕120年　富本憲吉	京都国立近代美術館	2006.8.1～2006.9.10
鉄絵竹林月夜図角皿	富本憲吉			茨城県立陶芸美術館	2006.9.30～2006.12.3
白磁大壺	富本憲吉			世田谷美術館	2007.1.4～2007.3.11
				岐阜県現代陶芸美術館	2007.4.7～2007.5.27
				山口県立萩美術館・浦上記念館	2007.6.30～2007.8.19
Fresh-eating Plant	重松あゆみ	兵庫陶芸美術館	兵庫の陶芸	兵庫陶芸美術館	2007.3.17～2007.6.3
Yellow Triplet	重松あゆみ				
Memory Cube	重松あゆみ				
hanahana	井戸真伸	愛知県陶磁資料館	「新進陶芸家による『東海現代陶芸の今』展	愛知県陶磁資料館	2008.2.16～2008.3.30
vague	Masanobu Ido+zenzan				
CATANA	井戸真伸				
CUSAVI	井戸真伸				
sole	井戸真伸				
絵志野茶碗	荒川豊蔵	中日新聞社	「人間国宝　荒川豊蔵」展	岐阜県美術館	2007.9.8～2007.11.4
				岡山県立美術館	2008.1.16～2008.2.24
				茨城県陶芸美術館	2008.4.19～2008.6.22
花器　摩李耶	十二代三輪休雪	朝日新聞事業本部名古屋企画事業チーム	第四十五回記念朝日陶芸展審査員作品展	名古屋スカイル8階丸栄催事場	2007.9.6～2007.9.11
				滋賀県立陶芸の森・信楽産業展示館	2007.9.15～2007.9.30
				高浜市やきものの里かわら美術館	2008.1.9～2008.2.17
				堺市立文化館	2008.2.20～2008.3.31
				そごう美術館	2008.4.12～2008.5.6
木の実に蜻蛉図皿	エミール・ガレ	サントリー美術館	ガレとジャポニズム	サントリー美術館	2008.3.20～2008.5.11
浮彫蓮子白鷺翡翠図花瓶	宮川香山			サントリーミュージアム天保山	2008.5.22～2008.7.13
セルヴィス・ルソーの三つ脚付き鉢	フェリックス・				
	ブラックモン				

＊巡回展は会期が翌年度に巡回する会場も記載した。

06／07年度収蔵品

※収蔵品データベースをご参照下さい。

樋田豊郎氏寄贈図書

一般図書	540冊
図録	277冊
紀要・年報・その他	203冊

※2007年5月22日、樋田豊郎氏より上記書誌を寄贈いただいた。ここに明記し、感謝の意を表わしたい。

入館者数一覧

月別観覧者数

年度	月	開館数	観覧者数		観覧者内訳①		観覧者内訳②		
			総　数	日平均	有　料	無　料	企画展	常設展	特別展
18	4	26	1,473	57	730	743	1,006	467	
	5	27	1,786	66	1,152	634	1,620	166	
	6	26	1,567	60	802	765	1,415	152	
	7	26	2,035	78	1,256	779	1,385	650	
	8	27	2,406	89	1,321	1,085	2,372	34	754
	9	26	2,278	88	1,385	893	2,137	141	
	10	26	3,599	138	2,436	1,163	3,183	416	
	11	26	5,225	201	2,726	2,499	5,189	36	
	12	24	3,295	137	2,206	1,089	3,261	34	
	1	24	2,629	110	1,661	968	2,288	341	
	2	24	595	25	542	53	0	595	
	3	27	617	23	526	91	0	617	
計		309	27,505	89	16,743	10,762	23,856	3,649	
19	4	26	3,009	116	2,031	978	2,641	368	
	5	26	4,371	168	2,405	1,966	4,260	111	
	6	26	705	27	655	50	0	705	
	7	26	2,270	87	1,426	844	2,133	137	
	8	27	2,326	86	1,454	872	2,326	0	631
	9	26	4,096	158	2,173	1,923	4,096		1,644
	10	26	950	37	534	416	950		969
	11	26	1,214	47	431	783	1,214		1,044
	12	24	750	31	270	480	543	207	127
	1	24	566	24	479	87	0	566	
	2	25	547	22	465	82	0	547	
	3	24	715	30	606	109	0	715	
計		306	21,519	70	12,929	8,590	18,163	3,356	4,415

企画展別の入館者数

年度	展覧会	会期	入館者数
18	「金子潤」展	2006.4.15～7.9	4,889人（2,456人）
	「20世紀陶芸界の鬼才　加守田章二」展	2006.7.29～10.9	6,665人（3,878人）
	「景徳鎮千年」展	2006.10.21～2007.1.8	12,302人（7,366人）
19	「生誕120年　富本憲吉」展	2007.4.7～5.27	6,901人（3,990人）
	「岡部嶺男」展	2007.7.14～9.30	8,555人（4,930人）
	アジア陶磁デルタプロジェクト 「じゃんけんぽんの考え方」展	2007.10.13～12.16	2,707人（1,068人）

教育・普及活動

1. 茶会

■大人の茶会

講　師：水野宗季（裏千家淡交会員）
会　場；セラミックパーク MINO　茶室
●2006年度
日　時：2006年9月15日（金）
　　女性の部 午後2時～4時　男性の部 午後7時～9時
参加者：女性の部11人　男性の部5人

■こどもの茶会

講　師：水野宗季（裏千家淡交会員）
会　場；セラミックパーク MINO　茶室
●2006年度
日　時：2007年3月17日（土）午後2時～4時
参加者：小学生12人

2. こどもワークショップ

■土でつくる心のカタチ2006　ー作家と共に行う、みて、つくる体験教室ー

会　場：岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム／セラミックパーク MINO　作陶館
①齋藤敏寿教室
　日　時：2006年7月22日（土）ー23日（日）午前10時～午後3時
　参加者：11人
②松田百合子教室
　日　時：2006年8月5日（土）ー6日（日）午前10時～午後3時
　参加者：8人
●思春期のカタチ2006（ワークショップ作品展）
　日　時：2006年10月31日（火）ー11月26日（日）
　会　場：岐阜県現代陶芸美術館ギャラリーⅡ　展示室C

■土でつくる心のカタチ2007　ー作家と共に行う、みて、つくる体験教室ー

①鴨頭みどり教室
　日　時：2007年7月28日（土）ー29日（日）午前10時～午後3時
　参加者：13人
　会　場：岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム／セラミックパーク MINO　作陶館
●思春期のカタチ2007（ワークショップ作品展）
　日　時：2007年10月30日（火）ー12月2日（日）
　会　場：岐阜県現代陶芸美術館ギャラリーⅡ　展示室B

3. オリジナルソフト

デジタルライブラリーにおいて、陶磁文化に関する情報を来館者に提供。
［人と作品］　荒木高子　加藤卓男　徳田八十吉　富本憲吉　藤平伸　三輪休雪　森正洋　森野泰明　柳原睦夫
　　山田光　バーナード・リーチ　三島喜美代　金子潤　鈴木藏
［技と素材］　美濃の職人による陶芸技法記録
［イヴェント記録］「世界陶磁器エキスポ2001（韓国）」「現代陶芸の100年」「デザインとアートの挑戦」

4. ギャラリートーク

■学芸員による展示解説（ギャラリーⅠ）

展示作品についての解説を、毎日曜日の午後1時半より、学芸員が交代で実施

●2006年度　34回

●2007年度　43回

■ボランティアによるギャラリートーク（ギャラリーⅡ）

ボランティアによる対話式ギャラリートークを、毎週日曜日の午後3時より実施。

●2006年度　47回

●2007年度　38回

■事前申込の団体への解説

●2006年度　42団体

●2007年度　32団体

5. 学校・地域との連携

(1) 鑑賞学習・調査活動

学校の図工・美術科の鑑賞学習における鑑賞マナーの説明や作品解説、総合的な学習の時間や社会見学における作陶体験や調査活動への協力を行った。

年度 ＼ 校種		大学	高等学校	中学校	小学校	特別支援学校・他
2006	団体数	7	4	3	0	1
	人　数	227	144	54	0	12
2007	団体数	4	1	2	1	1
	人　数	138	40	29	22	19

(2) 出張授業　＊学校に赴き美濃焼と企画展について説明

●2006年度　中学校一校　185人

●2007年度　中学校一校　188人

(3) 職場体験学習

年度 ＼	校 種	高等学	中学校
2006	件 数	2	2
	人 数	9	7
2007	件 数	2	2
	人 数	7	6

(4) 学校職員との連携

■研究会・研修会

年度 ＼	区 分	教育研究会	初任者研究会
2006	件 数	5	3
	人 数	91	5
2007	件 数	2	1
	人 数	8	1

■大地のこどもたち2008　開催委員会

会場：セラミックパークMINO　2F　会議室

①2006年10月14日　第1回開催委員会　教員8人

内容：趣旨説明、テーマについての検討

②2007年3月4日　第2回開催委員会　教員6人

内容：募集要項について検討

③2007年11月25日　第3回開催委員会　教員6人

内容：授賞や日程について検討、岐阜県教育委員会名の標記、関連企画の検討

④2009年2月8日　第4回開催委員会　教員4人

内容：展示会の振り返り、次回開催に向けての課題等の検討

(5) 博物館実習

実習内容:美術館の役割及び施設と機能、収集･保存、企画展とその立案、広報、教育普及、ボランティア活動、情報化、学校との連携、ワークショップ実施体験、成果発表

●2006年度

実 施 周 期：7月19日（水）－24日（月）

実習参加大学：信州大学、名古屋造形芸術大学（2校、2人）

●2007年度

実 習 周 期：7月24日（火）－29日（日）

実習参加大学：武蔵野美術大学、京都造形芸術大学
都留文科大学、名古屋芸術大学
名古屋造形芸術大学（5校、5名）

(6) 地域との連携

■帰国報告会

会　　場：岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム

●「アルゼンチン国際陶芸会議に参加して」

語 り 手：伊藤俊見（陶芸家、岐阜県立多治見工業高等学校専攻科教諭）

日　　時：2006年6月17日（土）

入場者数：30人

●「第10回国際マグカップシンポジウムinチェコに参加して」

主　　催：多治見国際交流会、TAJIMI海外陶芸家支援の会

語 り 手：正守千絵（陶芸家）

日　　時：2007年9月9日（日）

入場者数：50人

■多治見市アーティスト・イン・レジデンス事業

共　　催：多治見市企画部（文化と人権の課）

主　　催：TAJIMI海外陶芸家支援の会・岐阜県現代陶芸美術館

会　　場：岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム

●「ガブリエル・ハイン作陶展」

日　　時：2007年11月17日（金）－19日（日）

入場者数：200人

●「施　宣宇　作陶展」

日　　時：2007年3月9日－11日（日）

入場者数：100人

●「ビルマ・ビリャベルデ作陶展」

日　　時：2007年12月21日（金）－23日（日）

入場者数：250人

●「ソニア　ドゥオ・メイヤー作陶展」

日　　時：2008年3月20日（木）－22日（土）

入場者数：150人

館の概要

組織及び構成

開設準備事務所(2002年6月末まで)

- 所　長
  - 管理調整担当2人
  - 管理調整担当2人 ― 学芸担当4人

現代陶芸美術館(2002年7月－2006年度)

- 館　長
  - 管理部長 ― 管理調整担当3人
    その他、管理業務推進職9人
  - 学芸部長
    - 学芸担当3人(2002年度2人)
      その他、学芸業務推進職1人
    - 教育普及担当2人
      その他、学芸業務推進職1人

現代陶芸美術館(2007年度－2008年度)

- 館　長 ― 副館長兼管理部長
  - 総務部長 ― 管理調整担当3人
    その他、管理業務専門職9人
  - (兼学芸部長)
    - 学芸担当3人
      その他、学芸業務専門職1人
    - 教育普及担当2人
      その他、学芸業務専門職1人

岐阜県現代陶芸美術館協議委員名簿

(2003年1月－)

加藤明子　南楽窯マルホンすりばち館館長
加藤孝造　岐阜県重要無形文化財保持者　美濃陶芸協会名誉会長
加藤幸兵衛　美濃陶芸協会会長
金森昭夫　中日新聞社岐阜支社長（2004年9月～）
鯉江良二　国際陶芸アカデミー会員
酒井和行　NHK岐阜放送局局長（2004年9月～）
西寺雅也　多治見市長

宮地吾朗　岐阜県陶磁工業同組合連合会長
山岡浜三郎　オースタット国際ホテル多治総支配人
大松節子　大松美術館長　裏千家淡交会特別顧問
川上智子　日本陶磁協会岐阜県支部事務局長
楢原雅美　（有）彩都代表取締役
吉島忠男　国指定重要文化財吉島家住宅館主
土田恭子　岐阜県小中学校教育研究会小中学校図画工作科部会副会長
水野正遠　東濃地区図工美術教育研究協議会長（2004年9月～）

(2005年2月～)
加藤明子　南楽窯マルホンすりばち館館長
加藤孝造　岐阜県重要無形文化財保持者　美濃陶芸協会名誉会長
加藤幸兵衛　美濃陶芸協会会長
金森昭夫　中日新聞社岐阜支社長
鯉江良二　国際陶芸アカデミー会員
堤俊行　NHK岐阜放送局局長（2005年6月～）
西寺雅也　多治見市長
宮地吾郎　岐阜県陶磁工業協同組合連合会長
山岡浜三郎　オースタット国際ホテル多治見総支配人
大松節子　大松美術館長　裏千家淡交会特別顧問
川上智子　日本陶磁協会岐阜県支部事務局長
楢原雅美　（有）彩都代表取締役
吉島忠男　国指定重要文化財吉島家住宅館主
土田恭子　岐阜県小中学校教育研究会小学校図画工作科部会副会長
水野正遠　東濃地区図工美術教育研究協議会長

(2007年6月～)
加藤明子　南楽窯マルホンすりばち館長
加藤孝造　岐阜県重要無形文化財保持者　美濃陶芸協会名誉会長
加藤幸兵衛　美濃陶芸協会会長
金森昭夫　中日新聞社岐阜支社長
鯉江良二　国際陶芸アカデミー会員
遠藤景子　NHK岐阜放送局局長
古川雅典　多治見市市長
加藤愛之助　岐阜県陶磁工業協同組合連合会長
小倉智明　オースタット国際ホテル多治見総支配人
大松節子　大松美術館長　裏千家淡交会特別顧問
川上智子　日本陶磁協会岐阜県支部事務局長
田代久美子　（財）伊藤青少年育成奨学会常務理事
今枝寛彦　（財）セラミックパーク美濃専務理事
安藤恭子　岐阜県小学校図画工作科部会長（2008年3月現在）
水野正遠　東濃地区図工美術教育研究協議会長（2008年3月現在）

岐阜県現代陶芸美術館協議委員会

(2002年10月まで)
長谷部満彦　元東京国立近代美術館工芸課長、茨城県陶芸美術館長
金子賢治　東京国立近代美術館工芸課長
服部文孝　瀬戸市市長公室文化振興課文化企画係長
唐澤昌宏　愛知県陶磁資料館学芸員
河村宏三郎　多治見市環境経済部長
加藤智子　多治見市商工会議所副会頭

杉山幹夫　岐阜県文化懇談会座長、岐阜県芸術文化会議名誉顧問
岐阜県美術館協議会会長代理
平光明彦　岐阜県美術館館長

(2003年3月～)

金子賢治　東京国立近代美術館工芸課長
白石和巳　山梨県立美術館長（2008年3月現在）
外舘和子　茨城県つくば美術館学芸員（2008年3月現在）
草野満代　アナウンサー
杉山幹夫　岐阜新聞・岐阜放送取締役社長（2008年3月現在）

職員の動静 (2002～2007年度)

02.4　**開設準備室**
所　長　堀田時男、管理調整主査　肥田耕作
同 主 査　三宅克典、学芸課長　渡部誠一、
学芸課主査　不動美里、同 主 任　高満津子、
同 主 事　佐野素子、同 主 事　岩井美恵子、

02.7　**美術館に改組**
館　長　榎本　徹　転入
管理部長　堀田時男

02.10　管理調整主任　安藤さおり　転入
学芸部長心得　渡辺誠一

03.4　学芸課長補佐　岩井利美　転入
学芸部長　渡部誠一、同 主 任　佐野素子、
同 主 任　岩井美恵子

04.3　管理部長　堀田時男　転出

04.4　管理部長　高田 忍　転入

04.5　学芸部主査　不動美里　退職

05.2　学芸部主事　村山　閑　配属

05.3　管理部課長補佐　肥田耕作、同 主 任　松井さおり　転出

05.4　管理部主査　日野利明、同 主 任　三浦　薫　転入

06.3　管理部主査　三宅克典、学部長補佐　岩井利美　転出

06.4　**管理部を総務部へ名称改変**
総務部主査　山田徳泰　学芸部主査　加納礼爾　転入

07.3　総務部長　高田忍、　同主査　山田徳泰、
同 主 任　三浦薫　転出

07.4　総務部長　浅井広明、同主査　永瀬雅彦、
同 主 任　間宮和美　転入
副館長兼学芸部長　渡部誠一
学芸部主査　高満津子

08.3　総務部主査　日野利明　転出、
学芸部主査　高満津子　退職

活動方針

陶芸の現代とは何かを基本とし、新しい価値を創造し提案する。
　国際的視野に立ち内外の作品紹介と人的ネットワークの構図を図り、美術館の枠を超えて地域と連携するなど広い視野を持ち、多様な情報や体験を通じて楽しく陶芸に接することができる美術館活動を目指す。

活動内容

①収集活動

・陶芸の現代をテーマとして、収集対象を国内外、近現代（19世紀末以降）に絞る。
・世界の個人作家の陶芸作品を収集する。
・これまでの美術館の収集対象となりにくかった、実用陶磁器などを再評価し、収集する。
・地域の窯業振興に資するという視点から、モダンデザインの系譜としての産業陶磁器を、またマイセン、セーブル、ローゼンタールなどの名窯の産業陶磁器も収集する。

②展示活動

・ギャラリーⅠでは巡回展、特別展などの大型企画展示を、ギャラリーⅡにおいては収蔵品を中心とした展示室ごとの小企画展を開催する。
・展示替えは休館日に行い、年間を通して鑑賞できるようにする。

③教育普及活動

・デジタルフォトライブラリーにおいては、陶磁文化に関するすぐれた情報を来館者に提供するべく、オリジナルソフト制作を行ってきた。来館者に展示とは異なる多彩な角度から収蔵品を紹介し、作品の理解を助け、陶芸文化への多彩な糸口を与えることを目的とする。また、資料価値の高い情報をオリジナルソフトとして集積することにより、世界の陶磁器文化情報の集積と発信の拠点基地としての美術館活動を実現するソフト内容は、「人と作品」「人と素材」「展覧会・イヴェント」「特別企画」の４つのテーマを設けて、漸次プログラムの充実を図る。「人と作品」「展覧会・イヴェント」に関しては日英のバイリンガルで整備している。
・プロジェクトルームにおいては、美術館を身近にに楽しんでもらうための教育普及セミナーを開催、また教育関係者の会議や研究発表にも開放している。
・来館者の平均年齢は高いうえ、地域には陶磁器産業に従事する人々が多く、専門的な知識を有する人たちが多い。そこで、特に大人を対象とした専門性の高いセミナーを開催することで、学校ではできない美術館教育のあり方を探る。その他､複合施設という利点を活かし、茶室、作陶館などを利用した、体験型、実践的なアプローチからの鑑賞促進を目的とした普及活動を行う。

施設概要

施　設

名称	面積（㎡）	床材	壁材	天井高（mm）
展示ホール	2,236.71	合成樹脂系塗装	打放しPC板	9,000／4,500
国際会議場	419.62	フローリング（ナラ）	ホワイトオーク	4,800
イベントホール	167.73	タフテットカーペット	ホワイトオーク	3,600
小会議場	84.15	タフテッドカーペット	AEP塗装	3,600
作陶館	239.09	タイル	AEP塗装	5,600
茶室小間	12.01	畳	土壁	1,970
茶室広間	32.8	畳	和紙貼り	2,700
展示室1	128.28	フローリング（ナラ）	AEP塗装	4,100
展示室2	34.5	フローリング（ナラ）	透明ガラス	3,000
展示室3	76.73	フローリング（ナラ）	AEP塗装	3,600
展示室4	34.5	フローリング（ナラ）	透明ガラス	3,000
展示室5	180	フローリング（ナラ）	AEP塗装	4,100
展示室6	34.56	フローリング（ナラ）	透明ガラス	3,000
展示室7	83.27	フローリング（ナラ）	AEP塗装	3,600
展示室8	34.56	フローリング（ナラ）	透明ガラス	3,000
展示室9	128.82	フローリング（ナラ）	AEP塗装	4,100
展示室10	25.92	フローリング（ナラ）	透明ガラス	3,000
展示室11	115.83	フローリング（ナラ）	AEP塗装	4,100
展示室A	142.58	フローリング（ナラ）	AEP塗装	3,025／9,000／4,800
展示室B	109.55	フローリング（ナラ）	AEP塗装	4,200
展示室C	66.82	フローリング（ナラ）	AEP塗装	2,700
展示室D	122.43	フローリング（ナラ）	AEP塗装	6,300／11,715
収蔵庫A	403.27	フローリング（ナラ）	AEP塗装	3,600／6,000
収蔵庫B	96.94	フローリング（ナラ）	県内産杉板素地	3,000

建築

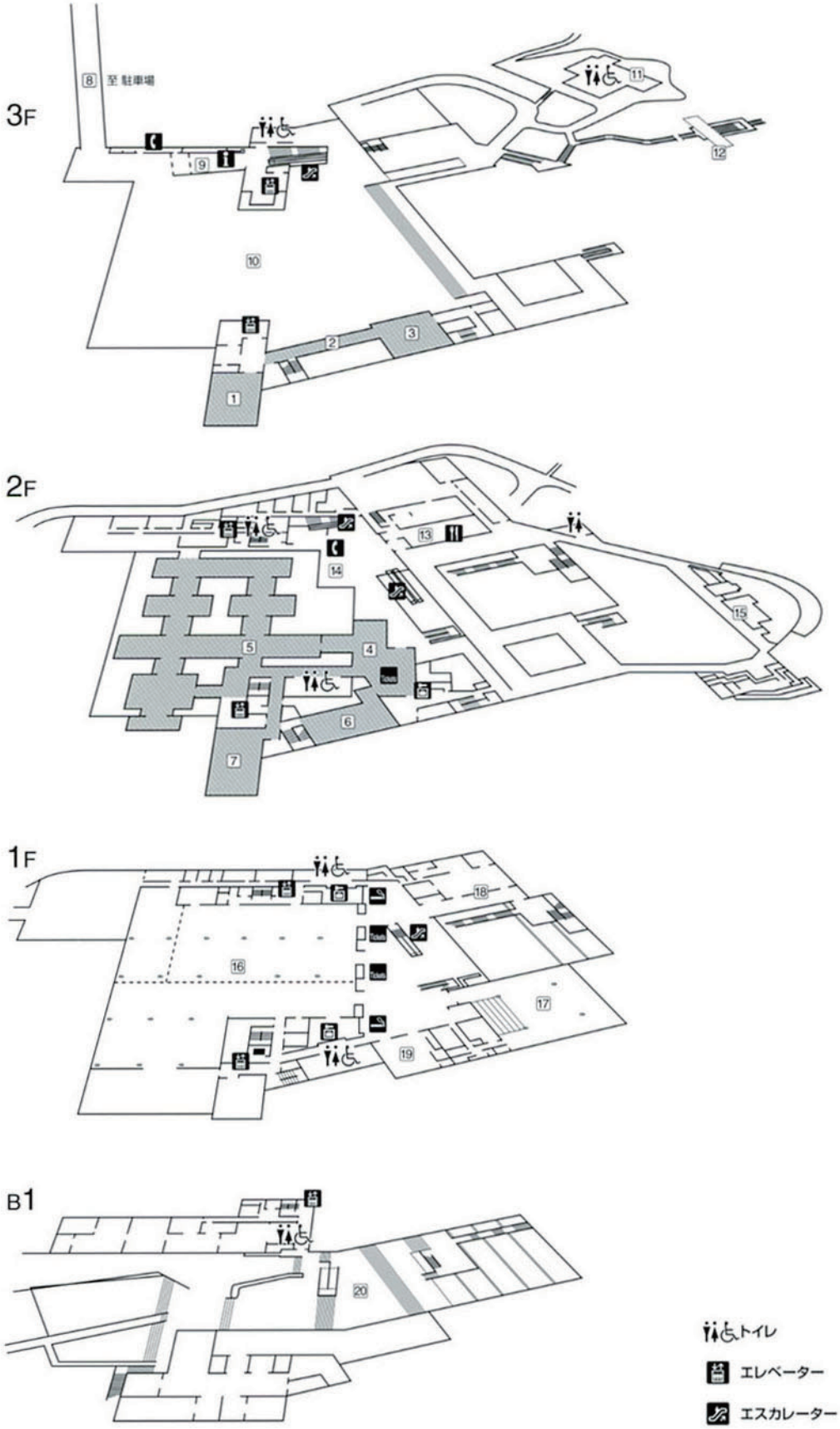
所在地	岐阜県多治見市東町4丁目2番地5
設計管理	岐阜県基盤整備部公共建築課
	株式会社磯崎新アトリエ・熊谷建築設計室
	設計共同企業体
建築	東急・鴻池・岐建特定建設工事共同企業体
電気	松本・ミリオン特定工事共同企業体
機械	日比谷・安田・ダイワ特定工事共同企業体
総事業費	約130億円
敷地面積	173,132.55㎡
建築面積	7,954.65㎡
延べ床面積	14,459.23㎡
階数	本館棟　地上3階、地下1階
	ロッジア棟（茶室）1階
	作陶館　1階
	展望台　2階
構造	鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨コンクリート造
工事期間	平成10年10月～平成14年7月
駐車場	一般　312台
	大型バス　3台
	身障者優先駐車スペース　4台

設備

電気設備		
電気需要契約	受電電圧	6.6KV
契約種別	業務用電力	500KW
深夜電力	氷蓄熱ヒートポンプラー	6KV200KW
	深夜動力	210V75KVA
変圧器	1Φ300KVA	3台
	1Φ50KVA	1台
	3Φ500KVA	2台
	3Φ500KVA	1台
進相用電力コンデンサー		6KV 424KVar 4台

電気設備		
電気受容契約	受電電圧	6.6KV
契約種別	業務用電力	500KW
深夜電力	氷蓄熱ヒートポンプラー	6KV200KW
	深夜動力	210V75KVA
変圧器	1Φ300KVA	3台
	1Φ50KVA	1台
	3Φ500KVA	2台
	3Φ500KVA	1台
進相用電力コンデンサー		6KV 424KVar 4台
避雷器	8.4KV　2.5KA	3台
非常用自家発電装置	3Φ3W220V450KVA	
直流電源装置	用途	非常照明
	容量	300Ah(54セル)
	出力電圧	108V
太陽光発電装置	連係する電力系統　低圧一般配電線	1Φ3W200/100V
	設備容量　太陽電池	6.96KW相当
	インバーター	8.8KW相当
空調設備		
氷蓄熱ヒートポンプスクリューチラー		
製氷能力		
暖房能力		1100USRT×10h
吸収式冷温水機		410.46KW
	冷凍能力	422KW
空調調和機	暖房能力	556KW
	エアコンドリングユニット	28台
	ファンコイルユニット	49台
	送・排風機	117台
	排煙設備	4台
	電気加湿器	35台
衛生設備		
給水設備	受水槽	22.5t(2槽)
	加圧給水ポンプ	65A×5001/mim×45m×5.5KW
	排水設備	公共下水道
消火設備		
屋内消化ポンプ	150A×2200l/min×86m×55KW	
消化水槽	25t	
閉鎖型スプリンクラーヘッド	483個	
予作動型スプリンクラーヘッド	649個	
N2ボンベ	49本	
消火器(ABC粉)	78本	
消火器		
昇降機		
EV1	油圧式	15人乗
EV2	油圧式	11人乗
EV3	油圧式	15人乗
EV4	油圧式	4人乗
EV5	油圧式	荷物用(3,300kg)
ES1		5.5KW×2
ES2		5.5KW×2
防犯設備		
ITV監視装置		
防犯設備		
ITV監視装置(モニターカメラ)		46台
防犯センサー(遠隔機械警備システム)		98台
池循環濾過装置		
池延面積	2,206.9㎡	
カスケード循環ポンプ	80A×750l/min×25m×5.5KW	
池循環ポンプ	40A×240l/min×25m×2.2KW	
池循環濾過ポンプ	80A×1,200l/min×50m×15KW	
雨水再利用施設		
雨水再利用屋根面積	2,800㎡	
雑用水槽	158t	
雨水濾過装置処理能力	4.5t/h	

施設案内



岐阜県現代陶芸美術館
Museum of Modern Ceramic Art, Gifu

3F
- 1 ギャラリーⅡ 展示室B
- 2 ギャラリーⅡ 展示室C
- 3 ギャラリーⅡ 展示室D

2F
- 4 美術館入口
  - 観覧券売場
  - ミュージアムショップ
  - デジタルライブラリー
- 5 ギャラリーⅠ
- 6 ギャラリーⅡ 展示室A
- 7 プロジェクトルーム

オリベスクエア
Oribe Square

3F
- 8 ギャラリーウォーク
- 9 エントランスホール
- 10 屋上広場
- 11 作陶館
- 12 展望台

2F
- 13 レストラン
- 14 ショップ&ギャラリー
- 15 茶室

1F
- 16 展示ホール
  - 観覧券売場
- 17 国際会議場
- 18 イベントホール
- 19 小会議室

B1
- 20 カスケード広場

トイレ　観覧券／入場券売場
エレベーター　ロッカー
エスカレーター　喫煙所
案内　電話

岐阜県現代陶芸美術館　年報　第3号　06／07
2009年2月発行
［編集・発行］
岐阜県現代陶芸美術館
岐阜県多治見市東町4-2-5

［印刷］
西濃印刷株式会社

［データ化］早稲田システム開発株式会社　2012年（一部編集）

Annual Report Vol.3 Museum of Modern Ceramic Art,Gifu
February/2009
[Edited and Published by]
Museum of Modern Ceramic Art,Gifu
4-2-5,Higashi-machi,Tajimi-shi,Gifu

[Printed by]
SEINOU GRAPHIC ARTS CO.,LTD.

[Date Origination by]
Waseda System Development Co.Ltd.　2012